	生産工場にあっては必要不可久な管理資料 であり、その代表例を次にあげる。 製造効率= 製造 良品 ×100 検査効率= 製造 良品 ・メ100 製造 は 品 ・ ×100	製品物客=	日時を明確にして原料の移動を中止する等 の標準を徹底しなければならない。 また, 効率関係算出のステップについては 前述のとおりである。	
超 点	事等, 生産管理資料の作	米粉砕品(不良品)の集計がなされ'o	分でない。	
P.D.	製造効率,製品効率等成がなされていない。	故事, 米郊界語 (ハマガス)	棚卸しの既準は充分もなる。	
关	原料使用品の把握 原料出出し伝票に相当する領料単の集計と 返品伝票に相当する退料単の差し引きにより、 使用原料は算出される。	月末に原料の棚卸しがされる。 主原料, 副原料合計36品種について実施れたなる。	集計票等標準化されたものではない。	
规	原料使用品の把握 原料出し伝票に相当 返品伝票に相当する選素 使用原料は算出される。	月末に原料の棚卸しがされる。 主原料, 副原料合計36品額に	集計票等標準化	

长	べたが、いずれ	10	
-	管理資料については前に述べたが、	の発明を充分に	
灰	に対ける。	元 され、	
<del>-</del> (1);	P使用原料が製品出来高の集計ミスと思	夏品と対比した兄方かしないためる。	
<b>33</b>	本が製品出来	品と対比した。	
68	P P 使用原	われるが、製品 と考えられる。	
长	1月の原料使用張と製品出来前	製品出米將 51,860㎏ 16,398	現場押出稜銭での水ぬれ及びく保管されている。
		使用原料 5 0,7 5 0kg 4 8,5 5 0	
朔		다 다 편 다	政権の状態なが、
- 	-	-	II—108:

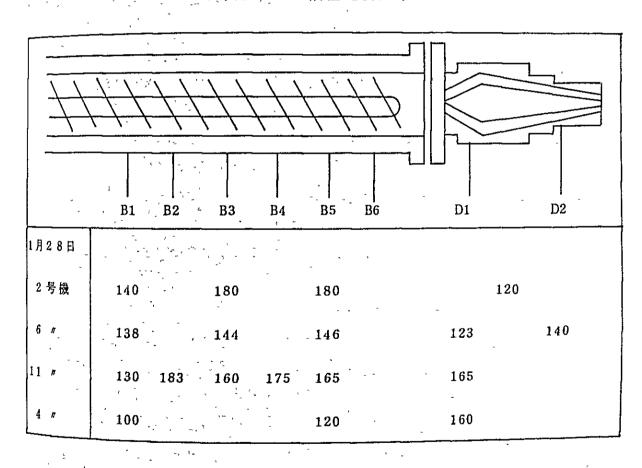
# 2-3-2 押出成形工程

# (2)-1 現状と問題点

原料はナチュラルであり着色なしに使用されている。押出機は65 ¢ と9 0 ¢ が適用され、通常押出量はPE、PPとも平均して25 kg/H前後である。

押出条件については技術課が中心となり決定している。しかし、その条件を製造に指示 するなり、徹底するための標準類は見当らなかった。 職場の責任者からはこれらの条件を 明確に聞くことができたので、徹底はこのクラスまでと考えてよかろう。

温度条件のみについては一交替時間に一回だけ記録され次直に申し送られている。表 『 -48は甲班組交接班記録である。



、表Ⅱ-48 成型温度記錄

この制度そのものはいいが、 突測値なのか、 指示値なのか不明である。

温度計はテスト中である11号に使われていたが、他の押出機には使われてなく、温度 調節器の調整が必要な段階である。

また、この記録を連続で見ると、日間で温度差が非常にはけしい。オレフィン樹脂で、 その温度条件に大きな幅があるとはいえ品質上問題である。つぎは2号機PE成型の例で ある。

	B 1	B 2	В 3	D	(T)
1/28	140	180	180	1 2 0	
1/29	110	120	. 140	150	

他にも多くとのような状態が見られ、条件指示の徹底方法、温度調節器の正常化, 成形条件の確認記録等は改善の必要があろう。

金型交換については、スパイダー以後を取り外しサイズ交換を行っている。しかし、当 脂が肉厚調整部分に流れ込み、その取り除き作業に手間を要しているし、成形中樹脂が全 型の外に流れ出ているものも見られる。また、金型解体時には焼却解体しているし、その 研磨状態も構足ではないばかりか、コアー等その傷は修理不能のものがかなり使われてい る。

特にPE50¢の成形状態を見ていると、時間単位で肉厚調整をしているのが実情でする。他の金型の肉厚調整ポルトを見てもかなり調整類度の多いことが想像できる。

ヒーター類は予備品がないためか、金型に密着できない異径のヒーターが使われている。 これらのことから偏肉が問題であることは納得できる状態であり、金型設計及び現場作業方法を併行して改善しなければ、その解決は見られない。また、PE、PPとも物性値が満足されていないとのことであるが、樹脂を熱だけで融かすことをやめ、圧力をも建した混練方法を考えるべきである。しかし、これらの製品は、生産実績もあることから現状設備を前提として管理方法の改善に注力することにより製品効率、品質向上とも可能であるうと判断される。

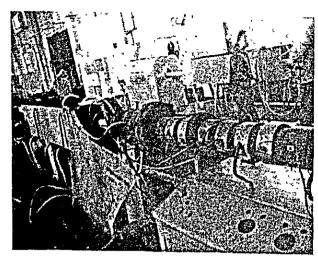


写 1 - 27 肉厚調整作業

写一27は肉厚調整作業中である。成形中の調整であるが,偏肉差が大きい場合押出機を停止して行う。

調整の頻度が多いのは、金型の問題と考えられる。

写-28はPP管の生産ラインである。 シリンダーには温度計がなく,温度調節 器も正常とはいえない。しかし表 II-49 の温度記録はなされている。



写 II - 28 PP管押出ライン

表 [] - 4 9 温度条件記錄表

ī. 3j	机分出度で		小 班 生		7
a 84		c	r 10 R	卫生物	& 
ł	الدائد عاولا	ے ٥٥ د	工祭	£#	
包					

### (2)-2 対 策

成形条件の指示をより明確にする必要がある。現在技術科でとの条件が作られているが、 とれは生産職場にまかせた方がよかろう。

新製品導入に際し、テストをくり返しその成形条件が決まればそれを製造に申し送り、 後は生産現場がその指示に基づいた範囲で成形条件を設定する。との時の責任者は生産科 の科長が望ましい。内容は温度だけにとどまらずモーター回転、スクリュー回転等、内容及 び様式は表 1 - 5 0 のとおりである。

## 表 1 - 5 0 成形指図書(例)

						1						1			
機名				サ	・イズ	ī		·	·-	<del></del>	<u> </u>	\$	<b>企型番</b> 号	7	
制定年月	日		<u> </u>   ,		_ *- ~	基本寸	法	許容	差					-	1
改定年	1日		製	Þ	9 径	ī,			,	,	,	1	位重量	t l	
			品	Þ	了厚			<i>*</i> • •	<del></del> ,			ŧ	<b>建</b> 单重量		
押	出量		規	長さ				<u> </u>				<del></del>	原準 重量		
			格	<u>-</u> <u>-</u> <u>-</u> <u>-</u> <u>-</u>	 を長さ	<del> </del>								-	4
			1 "-			- ′	,				<u></u>		<del></del>		
		kg/時間			, 			,				F	F容範囲	1	±
	原料の転				プレ	ーカー		· 扌	甲	出	機	温	度		金型温
	原料回転		k 72	ベア	スク	リーン・		B1		B2		В3	B4		DI
					,		-	, -		1 1					
						, 3		7		- ,					
				-		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				-		~			
γ	<del>û</del>	却	水槽	パッコ	Fン I	31374									T
ホッパー	パレル	スクリュー	1	2	3	引張機	5	・ーキング		切断	傚	72	取機	内	Æ
有	有	有			,	* ` .		,			٠	1-			
無	無	無				-				•	, ( <sup>3</sup>		_	-	
有	有	有				-	-			,	٠,٠				
無	無	無				<u>.</u>		<i>z</i>		, -		٠.		-	
備考	備考:			<del></del>	-							_	-		
	M <del>-                                   </del>					٦		, ,			- ',"	, -			

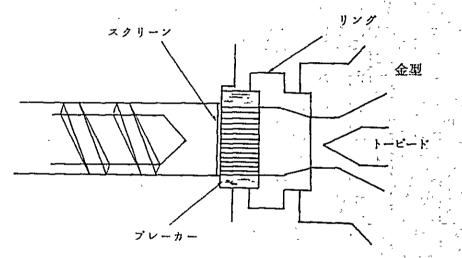
[] **- 112** 

					級	J _ 1	1	~	£\$	-				铁	铁		₩:	3	3	ķ	\$	
P#. FF	, i		,	-		· ·			'	-  -	٠,		,				が他	<del></del>				
	7.2.8 元 在 用		<u> </u>	包		` '	<u> 27</u>	· +	릴	.]	<u>_</u> ر	- · <del>-</del>	檀		丰		水を一その他		-			
-			-	_									,		kg/cd	<u>_</u>			-	-	-	
L.	作項			•	- \	· .	, ,	, _ %	• *						ķ	( kg	开盘	\	\	\		
±	TE 10.		ų ~	ı,			`` -`.,			_	,				<u> </u>		われ 色4.51	\		-		
04 ta	申し送り注意事項					,	·	,,			,				. 引張	¥	نے ت					
古	ا =			, ,		•	_		*						Ē	_	ねスジーふしきがかけな					
	<u>\$</u>		,	-	• •	, -							,		事の	£						
,,	不臨內容、	77		TT	آ- آ	[ - ]		П	Ti	<del></del> -	Ti	- -	ř Î	7	Ī	良	凸 + 凹 ×	\	\			
保护			2 = 2	<u> </u>	- 5	912	<u> </u>	នេះ	38	ន្តន		2 6	4 7	20	7	, m	四名					
		द्या स्वाह्य	12年12年12日						(kg)	2	kg	ķ	Ϋ́		kg/Hr	K	13 ES					
		표	- <del>  [</del> 9						3						ķ	·``			<del> </del>			
过程		赵	5 /		<u>.</u>	'	*.		不良預算								外保					
-		却水甾段	E 4		•			> '				• • • • •	<del>_</del>	吊石	13 TH th	_	<u>r</u>	-	2	<u> </u> 60	包装	
		샾	/2				,	,	Ç	,			-	<del> </del>	<u>₹</u>		整数 內部 內部					
-	#	#	田田田		*			鴙	不及数 (M)						91		東部		-			
		記さま	更有		١.	-			¥.											-	-	
3 11		31 IK	Tu		,	,-	,		<del>(</del> ‡		,	_		<u></u>		~	色 恒星	-		<del>  -</del>		
-						,								校野	댽		7 144				-	*
	※	7 4	6 /				-		ឆ្ល ឆ្លាង ( <u>ខ</u> .	-					46	١.	# 22 ±					<b>拠定値を記入の事</b>
	]	1	=/						មួម								3.4	-				百仑
		474		-				圦	2	-							J. 02.		_			参
2 uï	旗	L.	疆											- E	r.t.	4	ほぶ					
.2	~1	-	2.7						休此時	-				益	幼年		+ 7.					政政
		1.8.1	6/	ı			-				<u> </u> _		_		ķ	+	田副内面台回キズ					## ##
		2	10			- :			記古								三三			<u> </u>		中西
	沒	1	(B)	١. ٠	-; <u>-</u>		-	<del>11</del>	\$							缸						<b>茶</b>
1 1771		2	9; /		ļ				53€			,		0.0	H III	1	EZ:					目来
		К	< \ E			_			10			  -			, I=1	1		<u> </u>	1			1.0 TA
北京	E	F. # 1	斯:牌				-,.	-	25 25							먭	時期実外後平均逐				+-1	※品質チェック項目実外径、平均径、
1 5			· · · · · ·						7 7 25	×	Χ.	×	×				7.7		_			品品
8			10000000000000000000000000000000000000	ļ	ļ	<u> </u>			**			١.					時刻					淤
S		. سر	· 5	作示	-	2	m		迴		64	6	40	4	到		7		-	•	65	

· II-113

なお、温度調節器についてはPVCの項で述べたとおり、まず正常な姿に戻すととから 始めなければならない。この管理さえ徹底すれば温度計なしに調節器動針を読むことで代 用できる。これらの条件を一交替の中において三回点検し、日誌に記録することは前にも 述べたとおりである。(表  $\mathbb{I}$  - 5 1)

現在の温度条件を機械別に見る場合,差があるが若干の差はやむを得ないと思うが、樹脂別にその考え方は明確にしなければならない。また、樹脂溶融を温度だけでなく、必要ならプレーカーのセットやスクリーンの設置を考えるべきである。現在、これらは使用されていないので、このセットを検討すれば物性の問題、外観凸凹の品質問題は改善の方向に向かうであろう。



樹脂温度測定部所

- (1) プレーカーブ
- ~2) リンク
  - 3) 金 五

図11-42 スクリーン及び樹脂温測定部

樹脂温の測定も併せて考えることはPVCのところでも述べたので省略する。

サイズ交換は金型先端部の取り換えで行うととが時間的にも望ましいが、肉厚調整部のすき間など樹脂付着が著しい場合、この除去に時間を要するので最初の金型組み付けの時に充分考えて作業する必要がある。たた当職場の場合、肉厚調整頻度が高くとのため、その当り面は相当摩耗が考えられるが定期的に当り面の水平出しを行うととも必要だろう。

いずれにせよ,との成形工程では次の四項目に集約できる。

- ① 温度を含む成形条件の設定と管理の改善
- ② 品質向上,押出量向上のためのフレーカーの取り付け
- . ③ 樹脂温管理の追加
  - ④ 金型の修理と管理方法の改善

P E ナチュラル原料は通常吸湿はほとんど考えられないといわれているので、 乾燥器の

取り付けは必要なかろうが先にも述べたとおり、乾燥以外の効果も考えられるので、その検討は無駄ではなかろう。

スタート方法についての作業方法について表 🛚 -5 2, 5 3 に述べる。

### 表11-52 スタート準備手順部(例)

क्ष ह समिर्देत भ	F11 1121 H PE1847° 29-1	半備 作業標準書
作生的 11	1 13 動 タンクへ原料と入れる よ ホ・パー・ユニロ・リー ホールーロ・リーロ と消拝する	作業の要点。 ・マスリー・ブリール・カンがこ没有ない注意 ・ホッパーロ・ダーのマルターとだがらし清拝
押出办阅称。	1. H-41的の温度設定的為 2. 押まびのお外型と確認的 3. 1かシター海知用かのかり- 医清掃的	o ギャボーフスの弦切りにレベルショグオス
<b>全型関係</b> 。	1 生空上752777 毛州·邓州的 人。上了一种名成	の別かなドスクランプもたたくことによりクランプ カガラレスなる
结朴利州为	1 対北内のホッパーカル米の確認を作品 2 オイラの名。川水の向でと行動。 3. オリ水槽の前は作うたび、八月前進は 小災(水槽 年間月子)の一種度打 近 ずく姓、水門)分子外でせる。	・ 準明 冷却を移 ・ スルナーの消拝 ・ 長別カッな、移動さる場合、冷部水に動きが よる無質序以 放水させる ・ 水程内の 清掃
<b>水槽影桥的</b> 。	1. FT パイン、アルマンーの4枚 2:YACボンプの介引カルック	のセクンがうけのパッショなともうかえからかする。 の動なのイリスアップと行奏う のFTの研究と行業が、それにより、それは個人の事
क्षात रहतात	1. 作物和的21%; 人,专用代产调整2括	o IP. E. F-4-0树设施恕
tnih於関係、	1. 作動 科ツクと行為する。 定尺の設定とする	o リミット-5w 11 ポルトド7国定する
<b>卷取栈阅集</b> .	1、1年前分主27天行分。	n 17- 庄の613/1
l min.	1. UPつトの応合を打算す 1. が外 15分の挿入 3. マーヤーブの印字交換	のパインを利われた。また作者。 のより入り、「用マインタのチプをり指する

### 表 [ - 5 3 スタート手順 (例)

製定年月日	54年11月	_		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	手順事番号	决裁者印	<b>事族</b> 書6
<b>文訂年月日</b>		PEパイプ:	スタート作業	手順排	P-82	۸.,_	THE V
版 数	第版		· -	-	押出成型課。		
工程名	PEパイ	プ製造工程					作成
作業者	日勤作業	者 交替作業者					<u></u>
作業の目的		した製品を作る の向上 の確保	,				£^ r
作業用具	2. テス 3. スパ	キー ター ナー 他必要工具					
	作	業 手 順		,	要領及び注	<b>を事項</b>	
1. 元電		項 ーマーキングの クランプリング(	į.				- ,
4. 金型		ンスチェック ( 肉合わせ )		○肉合わ ルトに		帝め及び偏 <sup>反</sup>	均修正本
-	チェックを 操作カード	行う の確認をする					
<u>スター</u>	卜作業		,	-,		· · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-
1. == :	,	ホッパーローダ・	-のSw を	0スター	ト時のカウンター間	没定 :	
ONI	1 で面料2	と供給する	- [	- *			*

### 作業手順

- 要領及び注意事項
- , カラトロニックカウンター設定を行う
- 3 スクリューを回す
- 4 カラトロニックを始動させる メインSw, ミキシング、ドージング Swを ON にする
- 5. 金型から樹脂が流出するまでスタート条件で様子を見る
- 6. 標準押出量の3割程度で再引張作業を始める
- 7. カラトロニックカウンター設定を標準条件 に変更する

### 製品化作業

- 1. 引張作業を終えたならば標準条件に調整する
- 2. 製品の外観, 内厚, 外径を確認し規格を満 足させる
- 3. 試験班にスタート後、3時間以降の物性サ ンプルを渡す

## 製品確認作業

1. 製品, 寸法, 押出条件, 成型条件その他を 交替係へ申し送る。

<sup>※申し送り時,</sup>担当係班長が確認を行う

カラトロニックNo	3	2	1
設 定 数	40	3	38

- oスクリュー回 伝数を 6 rpm に設定する
- 6 rpm で約,75A を示すが、異常なしの目安である
- 再引張作業は、再引張作業標準に準ずる
- ○標準のカウンター設定

カラトロニックNo	3	2	1
設 定 数	0	3	38

- ●押出条件、VAC圧、水量、Pie、FT間の 距離、水槽高さ、引張スピート等を標準条件 に合わす。
- ○外観、外径, 肉厚の調整は各々の修正作業標準に準ずる
- ○再引張後,30分ごとに約2時間第1水槽各セ クションの水位を確認する

押出成形工程

現	平 照 Ш	校
成形条件は技術科より職場に指示する。	条件管理が充分とはいえない。	件指示は生産職場の費任
	弘度の変動幅が大きる。	日常その管理を行う。
B1 B2 B3 B4 D'		条件の点核は一交替三回行と、作業日間に
PE 120 130 145 160 180 C		記錄する。
スクリュー回転数22		温度変動については温度調節器を新品と交
PP 180 C 230 C 200 C		換,又は充分な調整を行う。
金型ヒーダーは金型の密発していない。	予顧品符組必不亦存	7 下独口条少字。 コーパ 大年以後の正田
		ンタンス子もは、これに、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには
		こう はいしょう こうこう アベエ ひこう デーン いっぱい かんしん アゲール・
-		
-	金型を焼却して解体している。その後の研	开 金型コアーを新型とし金型全体を硬質メッ
偏内が大きく、その修正短度が高る。	暦が不充分であり、かつコアーの仏が大きい	#
	ため、金型接箔面の流れの変化が考えられる。	
,	。昭既效動館が大きる	をつかむ。
	• 押出変動が見られる	加えたプレーカープレート、メクリーンを
		取り付け樹脂語の管理も行う。
The state of the s		

なお、作業標準類もなくサイズ替え、スタート作業等も一定作業となっていない。この ため作業時間にもバラツキが多く、品質への影響も大きい。このため前述の指図書、作業 日誌、スタート作業標準は最低として、更に下記に示すような作業についても標準化を進 めることが望ましい。もちろん標準化は作ることに意義があるのでなく、品質の安定のた めのものであることは理解されていようが、その徹底については一工夫必要なところであ る。

### 必要と考えられる標準類

- ① スタート準備作業標準
- ② スタート 作業標準
- ③ 偏肉修正
- ④ パイプ再引 "
- ⑤ パッキンローラー配置
- ⑥ 製品点検 作業標準
- ⑦ 寸法測定
- ⑧ PE設備点検 "
- ⑨ 製品, 設備点検 "
- 00 製品異常処置 "

~ = \$

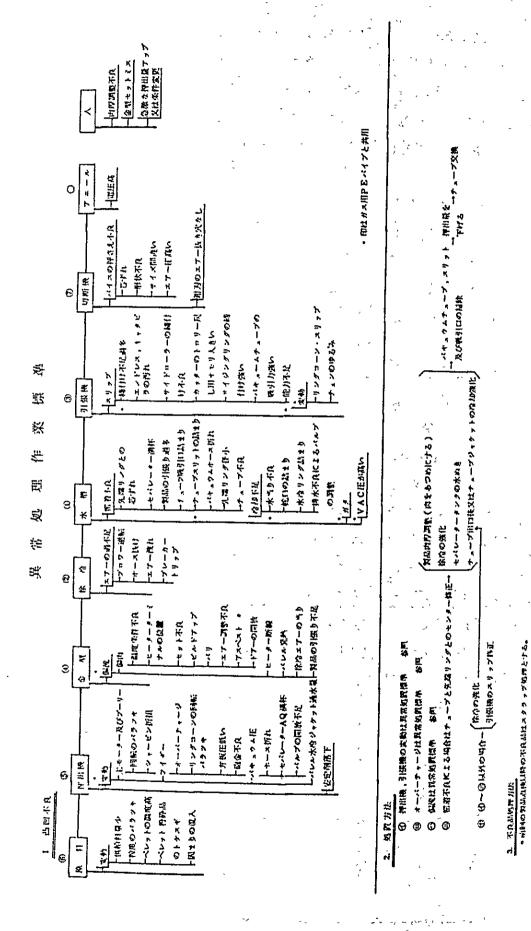
以上10項目をあげたが必要性によりそれは増減はできる。

徹底の方法はその職場環境に合わせたやり方があるが,

- ① 使り人が作る
  - ② 会合時間に作った人に説明させる

これは作業手順でもあり,机上で作られるものではないことを付記する。

製品異常処理作業標準を次にあげるが、これは不良発生の場合その処置を統一し、同一 品質を維持するために必要な標準であり、主な不良項目について作成することが望ましい。 ここに一例を示す。



II - 120

九代七二次加工所管社「住前協加成カード」に記載し、四カット均属する。

2-3-3 サイジング冷却工程

3)-1 現状と問題点

PEバイブの押し出しては、温度条件の維持管理ととの外径の制御が最大の問題といわれている。

当工場でのサイシング方法は、外径規制の内圧式である。この内圧維持方法としてはバイブ巻取先端をシールする方法と、主としてPPのバイブに使用されているフローティングブラグ方式が使われている。また、内圧用には最大3kg/cmのベビーコンプレッサーが使用され、通常0.1~0.3kg/cmで使用されているものと推定されるが、ゲージが正常でなくその確認はできなかった。なお、プラグはウェス状のものが使用され内圧リークが考えられる。

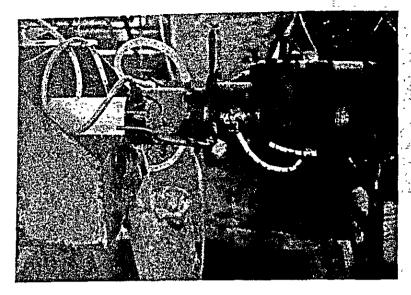
また、サイシングの固定方法は、金型とサイシングを2本のポルトで連結維持固定する 方法と、サイシングスリーブにワンタッチ式の治具が取り付けられ金型の先端に引っかけ る方法があり、PVC硬管のネジ式よりよく考えられ作業性もよくいい方式である。

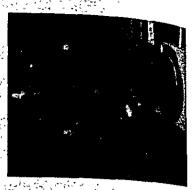
この材質については、硬質メッキ仕上げにするなりサビない材質のものを使い常にサビ、 その他が付帯しない平滑な状態を維持しなければならないがその点、当工場の場合問題点 といえよう。

サイシンクされたパイプは水槽に入る手前で通常2本のホースで水冷される。そして水 槽に入るが、その入口には水槽の水位を維持する目的でその漏れ防止のためにウェス等が 使われている。この方法はサイシングされた丸いパイプを変形させる原因となるので水槽 仕様の変更、水槽入口漏水防止方法は改善する必要のあるところである。また、通常は内 正式の場合、噴霧水槽かシャワー式が使われるのが一般的であるが、PVC 軟管で示した よりにロールを取り付けるなど改善できる余地はある。

水槽内のパイプは浮力が働き、水槽内でそり曲った状態となっている。更に悪いことには、水槽前後のサイシングスリープ及び引取機の芯が出ていないことであり、巻取りするパイプは問題なかろうが定天カット品については、そりの大きな原因の一つとなっている。

水冷長さについては、現在3m水槽一基が使われており、短かいのが問題である。通常 最小でも5~6mは必要であり、将来、時間当り押出量の能力を向上することを考えると 内厚、口径の大きいものは10m前後、いわゆる現在の水槽の3倍強を必要とすることに なろう。とのため、押出ライン全体の長さはこの冷却長さによって決まるということがで きる。





写 🛮 一30 サイジング周辺

写 || -29 サイジング周辺

写 [[-30は金型とサイジング及び水槽を連結したものである。

写 🛮 - 2 9 においても水槽改造によりとの方法採用する方が良い。

#### (3)-2 対 策

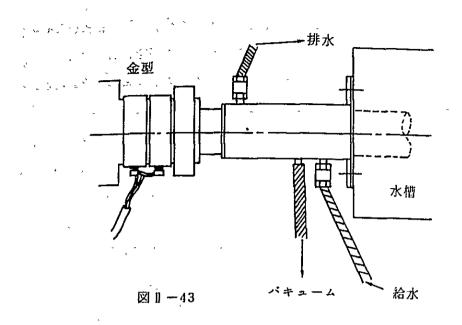
内圧式のため、内正変動は既製品外径の変化として表れる。前述の成形指示書の中K内 圧のシール方法と圧力を明記し、圧力ゲージも作業者の見やすい作業性を考慮した位置K 取り付けることである。

サイジングスリーブは通常硬質メッキをするが、サビない材質であればよかろう。 いずれにせよ、表面は鏡面状態でなければならない。 そして、この鏡面状態に完全密着するような条件をつくり出すことである。 なお、冷却水の取り付け方法はワンタッチ式にする方が良い。

当工場の場合、成形品の変形いわゆる断面形状の楕円が問題である。サイジング設計は 金型設計と密接な関係があり、金型設計時にサイジング方法が決定されるべき条件である ととは、PVCの項で述べたとおりである。

内圧式の場合,圧力によって多少の外径調整は可能であるので,他の方法より<sup>有利とい</sup>えよう。取り付けは図 🛘 - 4 3 のように水槽に固定する方法もあるが,この場合,水<sup>槽の</sup>仕様につぎのとおり項目を追加する必要がある。

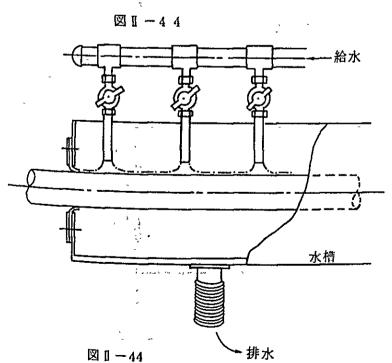
- ① 前後進可能とし、その操作は簡単であること。
- ② 上下の移動ができるとと。



この方法であれば金型とのすき間を持たせることができ、金型先端の温度の変動をなく すことができる。また、小さな偏肉差は、この角度調整により肉厚調整も可能とする。し かもこの方法は現在の取り付け方法でも採用できよう。

水槽についてはハンドル操作でスムーズな前後移動が可能となり、高低についてもその 調整が可能となる。なお、前後進可能範囲は 5 0 cm程度でよい。

内圧式の場合シャワー,噴霧水槽が通常と書いたが図Ⅱ-44に示すような冷却方法も



あり作業性もいい。ただ, との場合多量の水を必要とするので, 水の能力との関係を無視できず, また, この方式の欠点ともいえる。

現在の水槽の水中にローラーを取り付け、バイブを水中に維持する方法はPVCの項で述べた。

また、経済性を考えると、この改善が最も効果的であるう。水槽入口についてロムバッキンを用い、入口については製品外径寸法の90m~95m程度とし、出口においては85m~90m程度とし、必要の場合二枚重ねて使うようにして入口、出口にウェスをパイプに巻き付けている状態はなくした方がよい。

水槽の長さについては各系列に一基ずつ増設し、現在の水槽を第二水槽として使用th ばよい。水槽の延長は職場レイアウトを大きく変更することになり、将来計画とも考え合 わせると両側から中央に向かって成形するレイアウトでは無理となろう。当分は引取と 降の距離を短くして対応はできる。

図Ⅱ-45,表Ⅱ-54に水槽,パッキン及び押えローラの配置を示す。

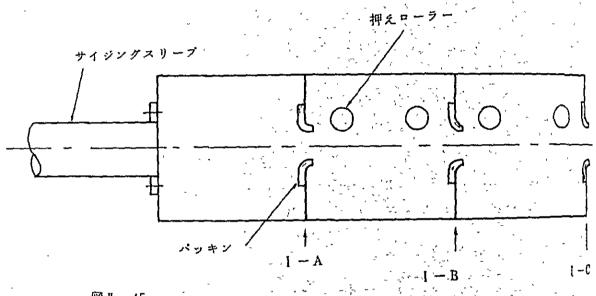
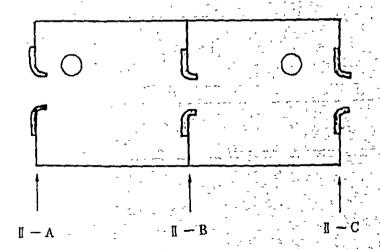


図 II - 45



Ø II --- 46

(%) I - CI - BII - A11 -B I - C--90 + 95400以下 90×1 80 + 8585 + 9090×1 80 + 8590×1 95×2 50岁以上 85+90 85 + 9090×1 85+90 パッキン内径 = 製品外径 × (多) パッキン四ヶ

パッキン厚み = 3%

サイシングや加工程

<b>数</b>	成形指示律に明記し徹底する。	一文啓三回点検を行い、作業日誌に記入す	00	内圧式ではその圧力管理は瓜製を項目であ	り、グージ類は作業性を考慮した場所に酸置	750		フローティングブラグはゴム材質によりそ	の身命は決さる。	ブラグは2~3枚な一組として使用し,ゲ	ーツ田が変化(降下)したら交換することを	作类既如とする。	フラグの大きさ:製品内径×1.10	(	金属フラグにロリングを取り付けたものも	使用される。	1	amountaine de la constante de		[St 11 47
開題為	内圧指示が明確でなく, またゲージ破損の	ものがある。				_	-	外径寸法の変動が考えられる。											7-	
現	表11-55 ベビーコンブレッサーの能力	排気船能力	0.0 3 m/3 3 kg/cm	0.3 m/3 5 kg/cm			-	現在の内圧値は 0.2~0.3 ㎏/ddと考えら	れるが、フローティングプラグ取り付け、状	題からリークが考えられる。										
-	-	بر المراجع الم				,	7	-	, J	- 12	26 <u>.</u>	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *			- 5,4 - 7,				*	- *

郑	茶		机		农	器
サイジングスリーブロサ	ロサビ辞佐国のおれが	合力効果が悪くなり、	り、楕円となりやすい。	· 05 4 8-	内面メッキのスリープと	しょとする。
はなり。					通常管理方法については次質にあげ、	ては次質にもげる。
				,		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		、な野館の中、路が子でしてつるかの。	ナンシインギン	٠. ٠	大戦仕様に追加する。	
			, - , - , -	,*,	の、「「「「「「「「」」、「「「」」、「「」」、「「」」、「「」」、「「」」、	₩
0 本 4 3 图		数目の中ノが膨がってる。	ر دري دري	P	と対象を見る	0
。窗水沢		てれられそりの原因の一つためる	因の一つである	- 1	② 前後進可能とする	20
• 國免			£		また、水槽の水中だり	ールを取り付け辞力
					が できる が、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
				,		
			,	,		
水槽入口を布等を用いて水もれを防い	って水もれを防いてい	楕円の原因となる。	0		パッキンを取り付け布等の使用をやめる。	等の使用をやめる。
<i>5</i> 00	,	£ -	MF.	,	⊠ II — 4 8	
	-				关	- L
	<u>-</u>					_
	-					
- -			•			
-	-		-		000	0 0
		-				1
•		-				<u>,</u>
-		-				
-	-			_		
			,		水槽の作成 12台	
-						m
					);;	

• --

### 2-3-4 引取り工具

### (4)-1 現状と問題点

2点支持型エンドレスベルト方式であり、仕様は次のとおりである。

引取速度

0.1-5~1.5 m/分

モーター出力

1.1 kW

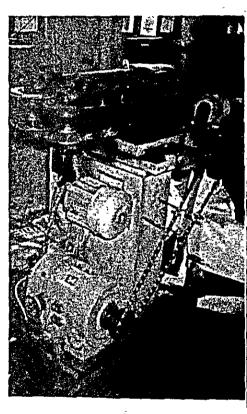
引取方法

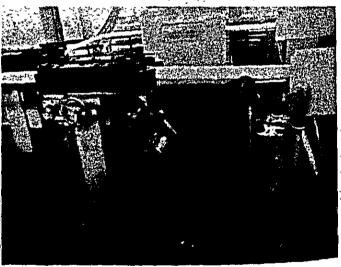
手動シメツケ

引取寸法

35 Ø ~ 170 Ø

この仕様の中で問題なのは、やはり引取速度であろう。現在では生産性が低いので識であろうが、時間当りの押出量の向上を考える時、若干の調整はプーリィーで可能ではあるが、まずネックとなる。また、動力駆動部は手製とも思われるベルト駆動であり、その回転部分は露出していて安全上望ましくない。(写 11 - 31,32)





写[]-31

写Ⅱー32

### (4)-2 対策

高低調整ができないだけで、現状では有効な設備の一つである。駆動部(齧出)部分化 カバーを取り付ける程度でいいが、生産性向上の方向では新仕様での製作が必要な部分で ある。 現在の品種構成では、引取り速度は最大 6 m/分、 仕様の引取機は準備する必要がある 9。表 I - 5 6 に 設備管理について述べる。

表 [ - 5 6 設備管理基準(例)

区分	资 理	项目	周期	質	爼 方 法		記録
			-	方法	刊定基準	如雅	
			'	** L ,	Hor. Stat Matt. 5		
	切断方法		,	目视、触手、異百	異音。発熱。回転ムラ	17 2H 7K 44	i
		異音、発熱、カーポン状型	4	目视, 触手	単純、ガタのなきこと	15理交換	
	^//	様毛。ガター。 学毛。仲ぴ	<i>t</i> ,	目 班 。	スリップしないこと	交換	
	γ~/ν`+ ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	切断状態	-	目视。触手	切断面の状態	交換	
	発 街 ノ∗フト	曲がり		自视	曲がり(プレ状態)	交换	!
	7.7				-		
,	チャッキング英質		, ,	,	<u>'</u>		
	ュエシリンダー **	作動状態		自視。 触手	作動が良くエアー個れなきこと	i i	
,	MX 3 5	曲がり、コム(へり)		B 772	曲がり、へりがなきこと	歩理交換	CHAK
İ	,,	- 1					定期整備
3	強制戻し装置			目视、触手	   作動が良くエアー海れなきこと		管理表
, [	エアーシリンダー		,		異音。発熱。摩耗なさこと	l I	
1	*************************************			自视	スリップしないこと		•
į	3 3					ļ	
	搬出装置 "		1	,	*		
ļ		ゆるみ、割れ	٠,	目視, 触手	異常のなきこと	<b>修理交換</b> 。	
	7-4	曲がり、折れ、	`	-		-	
- '	#11	曲がり、ゆるみ			-	<b>"</b> .	-
.'		. , ; ** ° , *± ° ,			_		
	世	Late Made Care	<u> </u>	\. <u>.</u> ,	異常のなきこと	修理交换	
· ` ·	リレー・マグネット sdマー・リミットスイッチ		-		共衆のなること	5-2-2-5	
٠,	. 21237212433	1FMJ4X2A				1	1
-	<b>27 · = − F</b>	**************************************	,			1	
,	エアー・配管	破れ	1		破れのなきこと	25理交换	1
`	電気コード	破れ,切れ	-		異常のなきこと	交换	
-	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		}	<u> </u>		1	
	帕受け			a	際種のなきこと	交換	
<i>'</i> ,	MIX'I	シャフトウェームの摩耗	Į .	8 W	MICONECE	1	-
	リングコーン。	コーン、シャフトの摩耗			<b> </b>	-	
31	,		-	1	-	}	
	抑え 装置	ペース、シャフトの摩託	-		~	•	
		スプリングの仲び	1	- *	伸びのなきこと	-	定期整備
뿄			,				管理表
	·	エノトレスペレト、キャクセラー	L.		早起 伸び、外れたきこと	) •	BEN
摄		学耗。仲ぴ			Ì	İ	
-	運動部-	St. 34 Marie Limber	)		京托。伸びのなさこと	-	
		チェン、Vベルト学托 (RCC・	_		-P-764 110 ->		-
		THO .				]	
, ,	+-9- , - <u>.</u>	具音,死熱		目视。触手。苷	異音、発熱。回転ムラ	修理交換	
		カーポン状態	]		にかいのなきこと		
			-	,	, i		
<u> </u>		]	1				

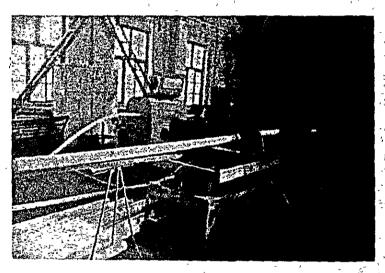
### 2-3-5 切断工程

### (5)-1 現状と問題点

巻き取りをする製品については特に問題はないが、PP管など定尺切断する製品については定尺、切断面ともに問題が多い。

まず定尺はパイプ先端定尺長さのヒモが取り付けられ、そのヒモのゆるみがなくなった 時作業者は切断を始める。

切断されるパイプは長さが一定でなく、結束後その長さが目立つパイプは手直し切断し修正されている。また、切断時、製品が固定されず切込み速度も手動のため一定せず、切断面の品質は極端に悪い。製品切断面に切りくずの焼付きが見られるが、これはノコ歯形状と切込み速度の問題であろう。せっかくいいパイプを製造しても、ここで品質を低下させるのは惜しまれることである。切断方法の大幅改善が必要である。(写『-33、34)





写 11 - 33

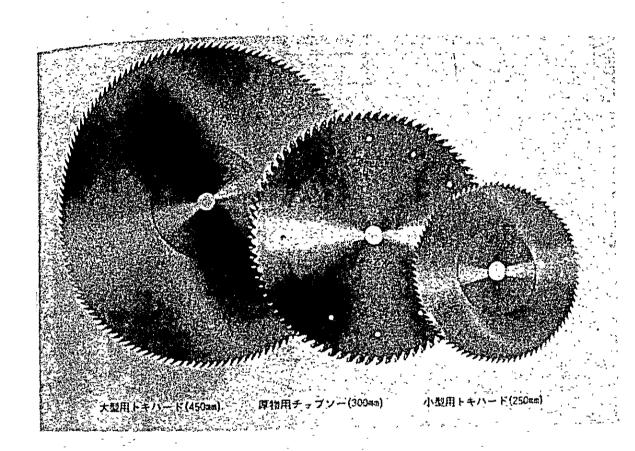
写 ] -34

### (5)-2 対 策

リミットスイッチで定尺を検出する方式に切り換えたい。この装置ではまず結束<sup>後手直</sup> しすることはないばかりか、その精度は土 3 mの中に納めることができるだろう。

また、製品固定については現在電磁石が使われているが、故障のためか使われていない。 これはエアーシリンダー式でもいいが、いずれにせよ使える装置に修理改善の必要がある。

更にノコ歯については歯先がつぶれており、切断面をきたなくしている。ノコ歯は定期 的に研磨することが重要であり、放置することは許されない。また、ノコ歯形状の悪さも 指摘できよう。このノコ歯の形状は非常に重要であり端管割れ等切断面品質維持に欠かせ ない。(写 11 - 35) 押出機からカッターまでの各設備別点検表を表 I ~ 5 7 にあげる。これは一例であり、 当工場ではまた工夫して実施して欲しい。



写 [[ -35

	製造設備点	検 表	(	B 78	)			〇 異常なし △ 調整 × 修理の記号を記入
設備名	点核项目		<u></u>	日	状	ft	 T	調整,修理内容配入 (アイデア等配入可)
・ 一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(目視) シャットウォームの穿毛オイル資 (目視)				-		<del> </del>	
張 遊	ベルトキャタピラーが耗。伸び (目視)				-	_	-	
田」	マベルトチェン原経。伸び (目視, 触手, 音) 異音,発熱、カーボン状態						_	_
1 7 2	元圧力 (kg/cd) 押え圧力 (kg/cd) (目視, 触手, 音)			ļ - <b>-</b>	<b>-</b>		-	
1 19 1 V	異音・発熱・カーボン状態 (目視・触手)						-	
128	學年,伊び (目視,駐手) 製品の状態							
	(目視, 絵手) ガタ, キーのゆるみ					· · ·	-	4
	(自視・絵手) 作動状態、スリップ (日本)							
9 134 1/9	(目視) 曲がり、ゴム(へり、ハガレ) (目視)	-					_	
加拉	作助状態, エアー高れ, ゆるみ (目視、触手) 異音, 発熱	-			_	<del></del>		
部ペルト	(目視、触手) が毛、伸び、帯からの対れ、スリップ					<del></del>		
被 按	(目視、触手) 引れ、ゆるみ (目視、触手)							
出 74 6	曲がり、折れ (日初 (計画)	-		_	-		<u> </u>	
- 「シー	はな。 たナノ 自がり、 ゆるみ 自 投栓手 ) とめ ( ゆるみ )	$\dashv$	+	_	$\dashv$		77	
CY Z	目視) ペピード, パランス				1			
10 8 4	目視) 対れ、止め部外れ 目視 )		_	$\overline{}$				
1 E (	だれ、曲がり 目視、触手) fれ、固定部ゆるみ	+	$\dashv$	-	$\dashv$	-		
	程(Amp) 段(Amp)	<del>-</del> - +-			<del>-</del>   -   -			
内台曲	目視, 触手) がり、ゆるみ 目視, 触手)							
IS   L.   (	作、取付部ゆるみ、 規修 目視、 触手 )	_	-	_ _	- -	_	_	
R 4   数	作、固定部ゆるみ目視、触手)	- -	+	_ -		_	-	
部 架 (	作、個定部ゆるみ 目視、触手) がり、ゆるみ	+	+	-	+	$\dashv$	$\dashv$	

現	H	超	<b>发</b>
引取機任稅			
引取速度 0.15~1.5 m/分	引取速度が低く, オ	引取速度が低く, 将来の押出量向上に対応	口低の大きのサイメについては現状設備の
2. 七一年一出力 1.1km	たやなた。		数音で使用できるだろうが, 他は新仕様での製
引取方法 手動シメッケ			作が必要
ドンドンスペゲー	- - -		
引取小法 354~1704			
			,
く ケ・既常	りが時の修理に時間を要す。	引を要す。	Vベルトの予編品をそろえる。
			また,所仕様ではチェーン駆動とする。
駆動部が韓田したいる。	取切安全上改善を要す。	歩。	安全カバーの取り付け。
ヒモで定尺検出なし手動で切断する。	庭尺のパラッキがナー 出出 ニュー・ムサイ	<b>庭尺のパラッキが大きく結束後修正のため畑よって、</b>	U V X Y V Y X Y V Y
	再反 *** ・ ・ ・ が *** が ** *** ・ ・ ・ が *** ***	<b>ひてない</b> 。	仕様とする。 全機対象
<b>電磁石で製品を固定する ( パイス )。</b>	故隔し使用されんなる。	0.	エアー式に改善する。この方が故暗が少な
			ら。コンプレッサー設置が必要となる。

The second constant of the second constant of

引取, 切断工程(2)

	米の原		神田機	
糕	ンコ目立て作業の際		- る。この時各押出機 1確にする。	
茶	ノコ刃形状の変更及び	**	谷押出機に各々設配する。と、には返用品値サイズを明確にす	
杭	ÿ.		5 ~ 6 月頃の生 する。	
阅	コ歯先端が丸く研磨が必要。	形状も思て。	機隊助することができず5~ ーク時,機械川失が流生する	年11-37
<b>E</b>	ノコ盤先端ス	また, 形状で	金機隊助する際に一ク時、	
<b>*</b>	!焼き付ひたひる。		カンターなど付帯設備が抜後動しながら使用されて	36
通	切断面に切りクメが焼き付てててる。		:的に引取機, (より少なく,	

# 2-3-6 検査工程

# (6)-1 現状と問題点

検査方法は基本的には軟質 P V C と変わらない。検査項目は内径、内厚、外観であり、 測定器具はノギス及び段付きゲージであるが、口径が大きくなるとノギスで外径測定され ている。その検査記録は検査した各サイズの記録のみで、結果についての記録は何もない。 ただその時の状況は検査員と現場検査員もしくは作業者と話し合いはされており、その意 味からはフィードバックされていると考えてよかろう。滞在中四日間内厚について検査記 録を依頼したが、その結果は表 II - 5 8 のとおりであった。

	肉厚及び公差	2月1日	2月2日	2月4日	2月5日
PE50Ø	3 = ± 0.6	$\overline{X} = 4.4$ 4.7 4.6 4.2 4.4	$\overline{X} = 4.95$ 5.7 4.1 50 50	-	
PE16ø	2 ± 0.4	$\bar{X} = 2.0$ 20 20 20	$\overline{X} = 2.3$ 2.1 22 2A 2A	$\vec{X} = 2.0$ 20 20 20 20	$\bar{X} = 2.0$ 20 20 20 20
PP68ø	3.5 ± 0.6	$\overline{X} = 3.3$ 26 4.0 3.2 28	-	壁 偏	$\bar{X} = 3.5$ 26 4.0 3.4 35
PP100ø	6.0 ± 0.8	$\bar{X} = 6.4$ 6.0 5.7 6.0 8.0		$\bar{X} = 6.4$ 6.0 5.7 60 80	$\overline{X} = 6.0$ 60 6.0 60 60

表 🛮 - 5 8 肉厚測定結果

PEI6¢ 管は安定状態にあるが他はいずれも偏肉しており、工程能力もきわめて低い。 製造工程において大幅な技術改善の必要なことを示す。

外径についても同様な傾向にあり、試みに野積場の製品を測定した結果も同様であった。 PPを除きPEは重量で管理しているが、肉厚と相関があるだけにこの時期肉厚の安定化 に注力すべきだろう。 表『-59はPE, PP管の内径, 肉厚を示す。

表Ⅱ-59PE管材製品寸法規格(現状)

内径 m/m	部頒標準	企業標準	些 厚 %	部頒標準	企業標準
4	± 0. 1	士 0.08	1 2	士 0.3	士 0.25
3	"	<i>II</i>	1		//
5	"	"	- 1	"	#
6	"	"	1 .	* //	"
8	士 0.2	士 0.15	1 .		, , , , , ,
10	"	"	2	. //	± 0.35
12	± 0.3	士 0.25	· // ;	± 0.4	"
16	. #	<b>"</b> .	<i>#</i> , ,	#	
20	± 0.4	± 0.35	3.	± 0.6	± 0.55
25	"	"	<i>"</i> "		"
40	土 0.5	± 0.45	. //	//_ //	"
50	" -	Ħ	~ <i>II</i>	<b>"</b> y -	, "

PP管材

40	± 0.4	士 0, 35	3 .	± 0.6	± 0.55
57	± 0.5	士 0.45	3	"	11
68	"	"	3. 5	"	<i>"</i>
82	± 0.7	± 0.65	4	- " ·	"
100	± 0.8	± 0.75	6	士 0.8	士 0.75

表I - 5 9の規格に対し、内径は段付ゲージもしくはノギス、肉厚に対してはノギスが使用されている。

通常管理状態にある場合との方法で有効であるが、偏肉差が大きく、規格限界値前後の 判定にはやはりマイクロゲージ、ダイヤルゲージ付内バス等精測可能な検査器具を使いた いものである。

現在の製品合格率は1982年の実績が99.6%である。しかしこの計算は、運転者が合格とした数量を基礎にしており、実際はもっと低いものと想像される。これらの検査は次のように行われている。

### 1)製品の物性検査

工場の検査規定は次のように定められる。

### (1) サンプリング方法

PVC, PE, PP製品において原材料,配合別,成形機別で10 Tの管材を1

Lotとする。しかし連続生産で10.4に満たないものでも1 Lotとすることがある。

(a) 檢查項目

検査項目についても工場検査規定に定められ、項目は次のとおり。

- ① PVC管材 引張り試験,断裂伸長率及び硬質においては偏平試験である。
- ② PE管 引張り試験, 断裂伸長率
- ③ PP管材 寸法変化率,偏平試験
- 2) 原料の化学性能試験
- 、(i)、サンプリング方法

工場受け入れ時メーカー別、原料別に受け入れ検査を行う。 100 袋の中から5袋を抜き取り、各100 8をもって試料とする。

- (2) 検査項目
  - ① PVC:粘度,水分, 黒黄点の検査
- ② PP, PE; MI, 水分検査 ·
- (3) 検査周期

一年に四回3か月ごとにこれを実施する。

以上が第14版における物性試験関係の規定である。

しかし現状ではその検査記録もなく、実態はそこまでの活動に至っていない。しかし との部門には試験設備もそろえ人材も投入しているので、確実な実行のもとに検査デ ーターを積み上げてもらいたい。

原料についてはメーカー成績書で代行してもいいが、中国の原料メーカーもまだ品質向上の途上にあり、頻度は少なくしても一年に1~2回は当分続けた方がよい。しかしこれは永続的に続けるものでなく、原料メーカーの品質安定が当工場の工程安定とともに内容は変化しなければならない。

3) 三級検査制度

次に検査制度について述べる。これはPVCの項でも述べたように運転者100%,職 場検査員70%,工場検査員30%の検査制度である。

(1) 機械別自検(運転者による検査)

・ 各押出機別運転者は生産しながら全数を検査する。この時,不良とした数量はその 、記録はされない。検査する項目は外観,内径,肉厚である。

#### (2) 職場検査

前記運転者の合格とした製品は、職場検査員によって検査される。検査方法は、最 械別に約70~80%を検査する。良品判定には印章(検査員番号)を押して、入庫 もしくは工場検査を受ける。不良品は破砕職場に送られ粉砕される。

### (3) 工場総検

入庫前又は入庫後に工場検査員によってきびしく検査が行われる。この時の検査性生産量の $20\sim30\%$ であり、この検査結果、良品と判定されると出荷される。不合格品は、Lot outとして職場検査に返品される。

以上が第14版における検査方法である。この方法でも確実に行われればそれたり に効果的と考えられるが、実態は前述の方法より大幅に接和されて実行されている! うである。

職場検査の70~80%の検査は実際的でなく、また、工場検査の実態もn数dyないようだった。この数字を使えるようにする以外はいずれにしる、工程能力を高めるための検査をすることが先決で、検査の方式を改善できる段階ではない。次に製品の評価制度について述べる。

#### 4) 産品評分標準

これは取場検査員と工場検査員で三か月に一回検査実績に基づき、各機械別の品質評価を実施する。90点を合格ラインとして、それ以上は機械別運転者の奨励分となる。 各項目別に奨励点がつけられているがここでは省略する。

#### (6) - 2

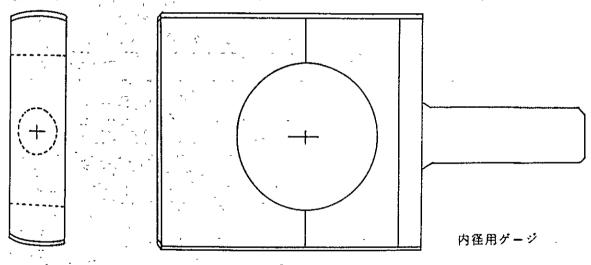
まず生産技術の改善向上に努め工程能力を高めるととが優先する。現在を極論すれば当 工場の成形品は検査できる品質水準にない。その改善については押出工程の中で述べたと おりたが、要約すると次のとおりである。

問題点	改善の方向	主たる内容
肉厚偏肉	金型新仕様による製作 金型解体作業方法の改善 金型交換作業方法の改善 スクリュー先端部樹脂の整流化 温度条件の再設定	特にコアーの損傷の程度が大きく新作の 要あり、硬質メッキ仕上げ 焼却解体の中止 プレーカ、スクリーンの取り付け 温度調節器の正常化及び適正成型温度の 探索
外径変動	内圧の一定化 水槽使用方法の改善	プラグ方法の改善及び内圧の標準化 水槽入口のパッキンによる止水浮力防止策

問題点	改善の方向	主たる内容
外觀向上	サイジングの密着化気泡外観の向上	サイジングスリープの境面化及び定期研 磨の標準化 プレーカ,スクリーンの取付け 乾燥器の取付け
重量管理	計量方法の改善	重量の規格化及び巻取り装置改善

検査治具について述べる。肉厚、内径とも限界ゲージを使用する。そして規格限界にある製品についてはマイクロゲージ、内径についてはダイヤルゲージ付内バス等を使用し判定する。 敬場検査員は一定周期で肉厚、内径を精測し、データーを蓄積し工程改善にフィードバックする。 この時、管理図等を用いるのも一方法であり、安定生産までこの手法を継続させる。

以下に製品チェックのための限界ゲージ概略図を示す。(図 [-49.50]



図Ⅱ-49 内径ゲージ概略図

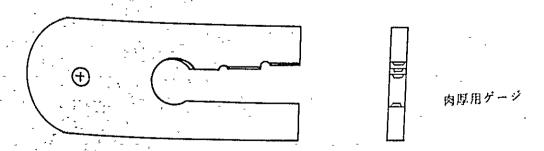


図 II - 50 肉厚ゲージ概略図

Cの限界ゲージを使って生産職場の運転者がどのように検査するかを表『-60 に示す。

### 表 1 - 60 品質点検作業手順 (例)

					n v. y. )	٠٠,	
制定年月日	51. 3. 20			*	手順事番号	决裁者印	実 <sub>防责任者</sub>
改訂年月日	57. 5. 20	品管パト	ロール作業	手順都	P - 6 1		
版数	第 3 版				押出成型課		
工程名管	製造工	<u> </u>	,	- "	\$	,	作成者
作業交者	替作業	<b>替</b>	* * *	,		-	
٠. بيود	品質の維持 安全の確値				\$ ,		,
444	手 線界ゲー・	炎	4. 内外 5. エア		<b>今車</b>		<u>.</u>
具 3.	巻	ア ア	6. その	他調整的	て必要を工具	٠	
	作業	手 順			要領及	び注意事項	
特記事項		-	,	÷ ,		, .	
1. 品質チ	エックパトロ	ロールは直	[/3回と	1)	ナンブルは第1	「回目の品質	寶時,1.23
し原則と	して下記の	時間に全機	チェック	- 直	ともに名2本記	<b>採取の事</b>	
する。		-	•	2)	スタート日及び	<b>F月曜日は</b> 1	直4本とする
1 直	09°00′	12°00'	14°30′	,		-	-
2 直	18°00′	20°00′	22°00′		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	- - - -	-
3 直	24°00′	03°00′	06*00',			121 3 24	J
2 品質チ	ェック時確認	<b>忍する項目</b>	l <u>.</u> .	1) [	内面点検は必っ	ナエアーに	て切粉除去し
1) 外観	:内面,外面	面,切口面	<b>可の状態</b>	- Rea	思する。	-	-
	印刷,標构	その状態, 正	可取り状態			r s	-
2) 寸法	. 外径,肉	享,全長,	切断面角	,	, , , ,	-,	٠
-	度商曲度		<u>.</u> .		a _		
3) チェ	ック本数		· ·	成规	・ ド条件は1直:	1回目のパ	トロール時
1. ₹	ーティング	で問題にカ	っている	VC.	指図書と比較し	<b>、範囲外の</b>	弱合比原因
	はその内容				明レ範囲内にプ	*	
増す	_	- "				· ·	
2. 問	題ない機械に	<b>ጎ.</b> 3 26 ይ	上測完			,	شد

### 作 菜 手 順

# [1]寸法测定

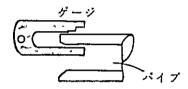
- 1. 定尺(全長)を測定する。 (湾曲度も確認する。)
- 2 肉厚を測定する

3. 外径を測定する。

- 4. 標線位置を測定する
- 5. 面取り後の肉厚を測定する。
- 6. 加工部の肉厚測定をする。

### 要領及び注意事項

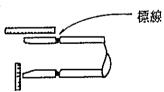
- 1. スチール製巻尺を使用する。
- 2. 製品が台車上に落下後30分以上経過 したものを測定する。
- 1. 原管部を限界ゲージで確認する
- 2 1 で異常の場合マイクロゲージで測定 する。
- o肉厚確認



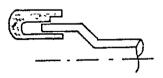
o外径確認



o 標線位置 (巾)



o面取り後の肉厚



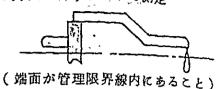
- 1) 通りゲージは抵抗なく最後まで通過のこと。
- 2) 止まりゲージは、ゲージに入ってはな らないこと。
- 3) 止まりゲージで入った場合マイクロゲ ージで測定する。

### 作 菜 手 順

7. 加工部の内径を測定する。

### 要領及び注意事項

o Di(入口部)ゲージで測定



### [2] 外観チェック

- 1. 表面の状態をチェックする。
- 2 内面の状態をチェックする。
- 3. 印刷の状態をチェックする。
- 4. 標線の状態をチェックする。
- 切断面の状態をチェックする。
   (面取り状態)
- 6. 外観チェック安全上の注意点
  - 1) 外観チェックは台車上で実施する ため加工機よりバイブが落下してく るため、必ず落下後チェックすること。

### 〔3〕 その他のチェック事項

- 1. 成形条件チェックシートに指定され た項目についてチェックし記入する。
- 2 記入時間
- 3. 異常の場合
- ◎ 成形条件の管理範囲は指図書参照の事。

. .

- 1. エアーで切紛除去後チェックする。
- 外観に問題があった場合は、必ず限度 見本と比較し合否の判定をする。
  - ヘルメットは必ず着用のこと。

- 1) 加 工 機 (油圧、油温、その他)
- 2) 押 出 機 (アンペアー、油温、その他)
- 1) 1直時 10°00′,
- 2) 記入者, 交替作業者
- 1) ロット区分(手順掛参照)
- 2) 復帰させる

表]]-60(続き)

作業手順	要領及び注意事項
(4) コンピューターインブット	1. 異常があった場合アクションを取り内
	容,不良重量,その他品質状況日誌及び
× * * *	コンピューターにインプットする。
	,
* **	
	}
r Harana ayan ayan ayan ayan ayan ayan ayan	
, ,	
,	
	j
-* -	
-	
***	

_	
ζ	
- 11)	•
į.	1
14	•
ĸ	1
43	ζ

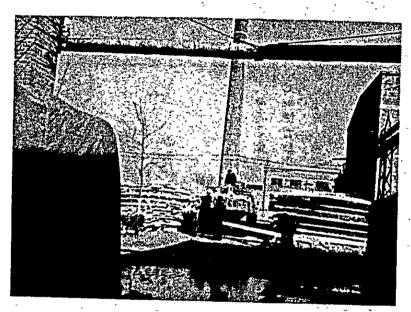
灰		段界ケージ判定とする。	また, 1時間1回を初期の頻度とし,その	結果は作業日誌に記録する。	<b>巻物については一巻き完了時毎に肉厚,内</b>	俗を点検する。		工程(成形中)の製品についてその複査を	<b>徴成する。問題点はその日のうちに処置し</b> 変	助に問題を殺さぬようにする。	必要に応じ、管理図等の手法を用いる。ま	た、通常限界ケージで検査するが、不合格線	上である時は精御する。	この時はダイヤルゲージ付内パス,マイク	ロゲージ癖を使い判定する。	前日,夜動時の成形状態を作業日話等から	<b>情報を得てアクションに結びつける。</b>				
屯		机检查的倾向が強く,不负品混入も目立						れていない。	ンプリング方法n数等もその標準化がな		,		-			· -	1				
强		日祝俊杰的傾向が強く	,					70%検査は災野なされていない。	サンプリング方法の数	۰	,				•	•			,	·	j
茶	•	ことが顧怖である,段際	<b>廃でない。個성調券の</b>	応製品チェックはなさ	2			し, 生産品の70%を		-				-				-	-	-	
現	<b>资</b> 选	100%核柱するに	<b>はその標準の内容が明確でない。</b>	頻度が高いことから一応製品チェ	れていると考えられる。		戰場檢查員	各職場に一名を配配	検査する。	•	c .	-,	7		3.0			-	-	-	

はその地で口頭で蝦蛄液が回に伝えられる。 被強器具はノギス, 殴什ダージ等を使用する。	<ul> <li>五知校並月</li> <li>が立場が近月</li> <li>が立場が近日</li> <li>が立場が近日</li> <li>が立場が近日</li> <li>が立めであるとのにくしても品質は向上しないが、 温板が任塔及び職場検査員とのミーティンを を</li></ul>	ボートないが, カンナカナ ストート である。 からんかか	型転費任者及び職場検査員とのま がを毎朝の日課とし、前日の品質状 結果について借報を交換する。 工程上問題あればその製品を重点 ることもあり得る。 n=20としに=2でロットア ロットアウトは生産職場に返し不り 再検査を依頼する。通常検査は限界が するが、規格限界ではダイヤルゲ・	1. (元を検す) (元を検す) (元を検す) (1. (1.) (1.) (1.) (1.) (1.) (1.) (1.)
			<b>検売をきびしくする以前に指摘した技術改善を実施することが優先することは前に述べたとおりである。</b>	<b>投</b> 第 選

### 2-3-7 出荷工程

## (7)-1 現状と問題点

検査済の製品は野積場にストックされる。(写 I - 38, 39)野積場の製品には、積持ちの時に発生したであろう傷が多く発生している。また、荷札でロット表示はなされ、 先入れ先出しの工夫はされているが、保管の状況では荷札使用は不安がのとり、パイプ製品への表示が好ましく商品イメーシも向上する。



写 11 - 3 8



写 11 一 3 9

### (7)-2 対 策

横持ちは専用台車で運搬し、野積みでは枕木、パレット等の上に置くようにし、直接地上に置くとは避ける。

オレフィン系のパイプは屋内保管が好ましいが、現状の環境ではそれは無理であろうか ちせいぜい横持ち保管方法に上記の改善の手を加えることである。

ロット表示は直接製品に印刷されることが望ましく、インラインでのマーキングを推奨 するところである。出荷は供銷科の発行する車両手配むによって実施される。

- 2-4 生産設備製作工程の現状,問題点と対策
- 2-4-1 押出成形用設備部品の製作
- (I) 企画仕様決定
  - (1)-1 現状と問題点

製品企画は次の三つのルートからなる。

- 1. 需要家の要望
- 2 公司の要求
- 3. 工場独自の計画 二、

公司を窓口としてすべて処理されるが,一般的には大型商品は公司,そして小型商品は工場で各々処理されている。最近企画された製品として表 II — 6 1 の三つをあげることができる。

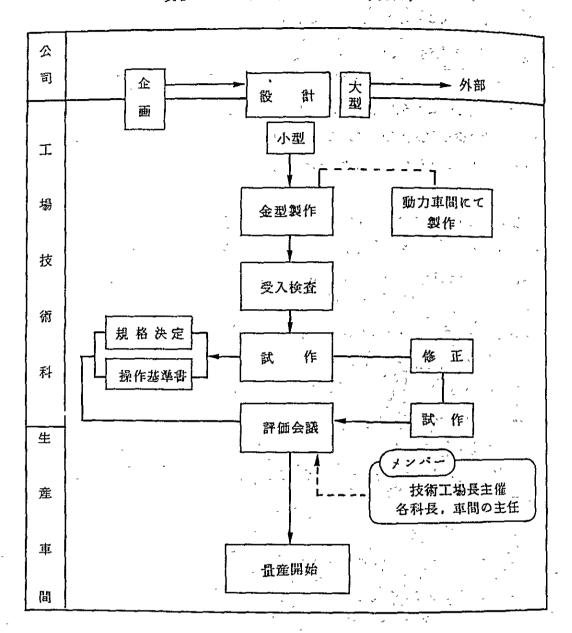
表 1 - 6 1 企 画 商品

要	鞤	- 先	製	គីជ	名	金 型	製作先
天	準	市	P	VC碌	管	企	司
公		司	手	す	b	I	場
<u>2</u>		司	発	泡製	វដ		_

問題なのはこれらの製品についての市場調査、品質情報、技術情報等の収集活動が充分になされていない点である。

表『一62に当工場の企画から量産までのフローについて述べる。

表 🛮 - 6 2 製品化のステップ(現状)



工場で企画された製品は技術科が技術工場長に報告書を提出する。技術工場長は評価会議を召集し、科長及び車間の主任をメンバーとしてその内容について審査する。 しかし現在の状況を見ると、すべてに不都合点が見られる。

先程述べたとおり、まず技術情報が充分でなく、検討もなしに走り出している傾向に ある。また、納期の関係で不充分な状態の製品が出荷されている現状では、まずこの企 画のステップを充実させる必要があろう。

PVC管にあっては,押出機本体があるだけで配合,金型,冷却,引取機すべてに欠点,又は使用できない設備環境の中で試作畳産が続けられている。手すり異形品についてもしかりである。

### 

企画段階では充分な品質、技術情報を収集することであろう。そしてそれ等がまとまった段階でテーマ選定会議を開催し、ここで充分それらの内容について検討が加えられ、その後品質基準書が作成、設計のステップへと移行する。

テーマ選定会議は年2回程度行い、計画的な製品立上げを実施する。そしてとの中ではテーマ名の決定、予算、スケジュール及び担当部署等が明確にされる。企画では公司中心の活動となるであろう。

表Ⅱ-63に製品企画から量産までの標準類を列記する。これを参考として第14版 なりの標準類のまとめを希望するものである。

表11-63 製品設計における標準事類

			v			- Them		******	, 	54.4.1
ステップ	部类布	標 準 街 名	製造課	校査踩	上粉碟	莱劲珠	安坝踩	能物踩	金型菜者	備之
製品企画	0	品質基準費	Ì	1	,=-	. 1			,	
,AL 2		(非 華 基 指 缉 費 品)			,	,	Marie 1	` , <sub>1</sub>	, ,	v
i I		製品仕様費	[		- 3			<u> </u>   -	] ]	
	,	(製品図面)				·O			-0	۲
					, ,					1
		金型見積り依頼背							0	•
		金型見获也	}			0			7-0	
!	0-	原価検討班		,				1		
	0.	大口設備予算事			=		<u></u> O	10 mars	, , , , ,	
製		大口設備予算	-0-			0	<u> </u>	-0	- `	' ,
		設計評価チェックリスト	<u> </u>	,				,	) y"	o 設計評価
		(購入依頼費)	<u> </u>			0			0	会議 。 全型系統
品		金型仕採図			ļ	O		<u> </u>	-0	。金型起了 検討会
		金型製作図面	<u> </u>			, .	 		-0	
3	<u> </u>	金型図面	<u> </u>			0=	L			-
設						<u> </u>		†- <b>-</b> -		
		金型品質設計基準			10	•	] · · ·	-	] · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	A model d
	į	金型寸法測定表	<del></del>				<del>  -</del>	,	<del> </del> 0	0 金型納力
왐		金型検査チェックカード	-					, ,	0	Ì
	Ì	金型核查受入核查報告			-					
		テスト依頼	<del> </del> 0-	<u> </u>	-0			·		
-	 	(金型テスト報告書)		-	1-	۰.	} , _	,	- '	
	Ì	(試験研究依頼街)	<u> </u>	-0				1 / - 		
<u>.</u>		(依頼試験報告書)	<u> </u>	10	-			,	,-	
		金型連絡曲			Ì				-O	。 金型格i
	<u>a</u> =							- 1		の品質管理
<b>华</b>		製品規格	<del>   </del>				FO			委員会
生産準備		(製品量産)決定事	10-	†O-	+0-	10-	1	10		
生産出荷		(管理図の期流動管理)	1			1.5	[			
四何	<u> </u> 	初期流動管理結果連絡事	10					-		{
!								-		
	<del></del>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	┴	<u></u>	1	<u></u>		<u> </u>

# 2-4-2 設 計

# ②-1 現状と問題点

工場における設計は技術科がその実施責任部署となっている。実施内容は製品図、製作図面の作成、設備受け入れ後の試作、規格作成、操作条件の設定等量産移行までの作業が このステップに含まれる。

図面作成では充分な作業が行われているであろうことが、実際の作成図面を見てもうかがわれる。この段階での問題点は、製品設計のステップが省略されていること及び設計評価機関が不明確、また、試作段階における繰り返しの多いことである。このことは受け入れ時の検査及び点検方法に問題あるためと思われ、標準化が必要であろう。また、この試作の繰り返しは試作評価と改善のステップがなく、同一条件での繰り返しのみで前進がうかがわれない。

技術情報が少ない場合, 基礎的な技術を積み上げることにすべてを注力すべきだが, この努力もないまま従来技術の延長で処理しようとされている。

PVC硬管異形品等工場全体の生産への熱意はうかがえるが方向転換、いわゆる企画段階までさかのぼる必要があるだろう。工場設計の結果は特に公司の了承を求める必要もなく、工場独自で推進される。

更新については通常設計基準書に基づき作成されるが, との標準も未整備のようである。 未使用金型も多いことから更新も多く行われていることが想像される。

#### (2)-2 対 策 3

工場の中で技術情報の豊富な技術科が責任部署であることが望ましいことであろう。そして既存製品の金型を製作するという次元では何ら問題なかろうが、新仕様での展開としては問題点は大きい。

押出成形では個々の設備がいかに優れていても, 系列として機能しなければ製品成形は 困難である。金型のみの設計といえど押出機との関係, サイジング方法, 冷却方法との関連を考慮した金型設計でなければならないことはいうまでもない。

PP.PE金型類については既に設計基準とすべき基礎的寸法を持ち合わせているだろうが、それが標準化されているかどうかは疑問なところだ。

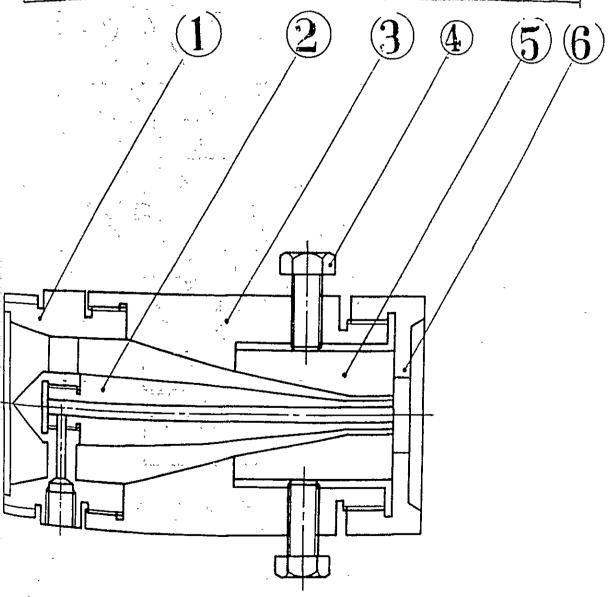
図II-51は現在使用されている金型の組付図である。この金型はコンパクトであり、現状品種に適用し、サイズ替え等も簡単であり、それなりのメリットがある。更に特長としてトーピード、スパイター、ランドコアーが一体加工されていることであり、L/D も非常に小さい。この仕様は現状押出最下では有効であろうが、今後の押出最向上の方向では、次のような問題点が指摘されよう。

- ① ランド部が短く押出量向上ではバラス効果が大きくなる。
- ② 金型への導入部の口径が大きく整流, 等速流が得られない。
- ③ 解体作業が困難である。

この中でも現在解体作業が「焼却解体されていることから、この改善について図』。 5 2 に示した。

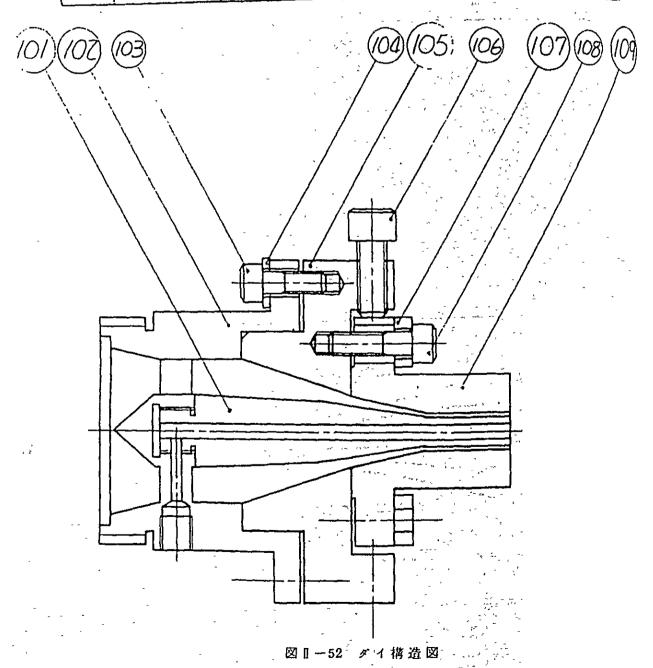
セットポルト方式に変更したがこの方法では焼却する必要はなかろう。又その解体方法 について表 II - 64,65に資料を添付した。

品番	<u> </u>	番_	名	称	材質	开乡	格	重	星	個数	子借	쓞
00 00	<del>-</del> -	н г н	ブリ	ッジ	\$45C					1	- :::	- 1
7	`		コ <u>ス</u> -	_ 、_、	S45C					7		
7	,	,	第15	シンド	5 <i>45</i> C					7		-
1	· · · ·	, 1			SCM435	M8x	20			4		
5		~	第25	ランド	S <i>45</i> C				<del></del>	1		
6		, a =11.	締灯	ケリング	S45C	•				7		
-	, ,											
			,									$\neg$
			,									
			1 .									$\dashv$



図Ⅱ-51 ダイ構造図

品番	番	名	称	<b>林 質</b>	形格	重量	圖	補	4
101	(8)		) <del>-                                   </del>	S45C	<u> </u>		1	- 1	U
102		7".		S45C			/		$\dashv$
103	-	六角穴	付ポルド	SCM435	MGXIZ.	1	6		7
104		座		SS41			6	3	
105		第一	ランド	S45C			1		
106		六角5	さ付ずルト	SCM435	M8xZ0		4		
107	-	, , ,	リンク゛			35	1		
108		1			M6XZZ3		6		
109		第2	ランド	S45C	, , ,		1		
						.   .			



II - 154

改訂年		手順事番号     決裁者印     実施責任者       事     P-76       押出成型課
版 工程名	管製造工程	作成者
作業者	セットアップ作業、交替作業	
作業の目的	1. 金型解体ができるように	
作業用		<ul><li>○ウエス ○金型吊り具 ○研磨液</li><li>○シリコン ○ナイフ ○モリコート</li><li>○手 袋 ○銅 枠 ○防錆油</li></ul>
	作業手順	要領及び注意事項
-	工具を準備する。 型をセット台に乗せる。	<ol> <li>メガネスパナはポルトに合ったものを 準備する。</li> <li>アイボルトをネジ込みワイヤーを使用 してホイストで吊り図ー1のように置く</li> </ol>
3.	金型セットボルトを取り外す	図-1 1) メガネスパナを片手で押え、銅ハンマ
A		ーで打撃してポルトをゆるめる。 注:1銅ハンマーを持つ手には手袋を しないとと。

	- 1	
作業手順	, , ,	要領及び注意事項
4. ランドを抜く		1) アイポルトをネジ込みワイヤーを使用
		してホイストで吊り床面に置く。
5. ランド部の樹脂を取る。	1	1) ナイフでたて方向に切り銅棒でブリッ
	, , ,	ヂ部と切りはなす。
	-	注:2 デイフで金型をキズつけない1
,	-	うに慎重に作業すること
6. プリッチ部と後部を離す		1) コアに金型吊り具をセットレワイャー
,		を使用してホイストで吊る(VP13は手
	,	で持ち上げる)図ー2参照
	7	The state of the s
		La la la la la la la la la la la la la la
	- 4	
-		
		自為人 对别的认为。
,	,	
	- cw.	図 — 2 図 — 3
	,	
	-	
7. ブリッチ部の樹脂を取る。	-	1) ホイストで吊った状態で樹脂を取る。
		(金型を最小限の振れにする)
		2) VP13は作業台の上に乗せてから樹脂
	, ,	を取る。
8. プリッチ部をおろす	-	1) 図ー3のようにアルミ台の上にのせて
	s	横へたおす
_	-	

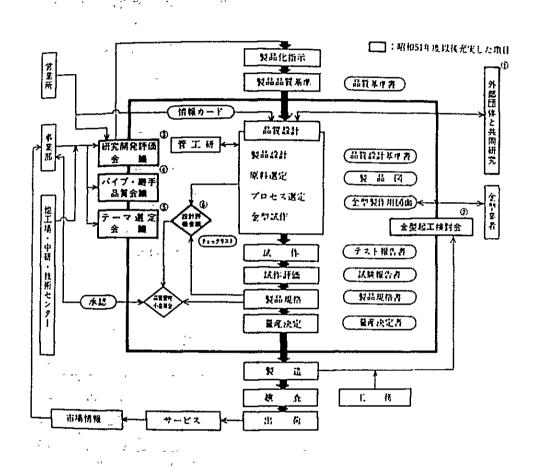
	市公工 70 公正
作《菜。手、順	要領及び注意事項
9. 金型を研磨する。	1) 黄銅プラシと電気ドリルを使用する。
	(図-4参照)
	2) 研磨液を樹脂通過面に塗る。
	プレ防止パイプ
	(ランド・コア用)
	電気ドリル 真ちゅうプラシ
	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
	(ブリッチ用)
	真ちゅうブラシ
	図 — 4
	,
10. 金型より研磨液を取る。	1) シリコンをふきつけウェスでふき取る。
11. 金型をセットする。	1) ブリッチ部を吊り後部に乗せる。
	2) ランド部を乗せる。
	3) 金型セットボルトをしめる。
	注一3 セットポルトのネジ部にモリコ
	ートを付けること。
	注一4 金型当り面に防錆油を塗ること。
12 金型を指定場所に保管する。	1) 金型をハンドリフトの上に乗せ指定場
	所へ移動する。
13. 後かたすけをする。	1) 治工具は所定の場所へ返却のこと。
	2) 掃除をする。
	27 11000
And the second s	157
on the garden't theter than the least of th	-

# 表 11 - 6 5 金 型 台 帳

# 金型、合 税

냂	. 名:				
Ø	者:		·	,	* ~.
起	I:		,	- *	₹ 1 € * Im
設計担	当者 :				
製作年	月日:				
型則	作所:	*	-		
対称技	划战;		4,	,	•
金型技	才質:				

ia) IK. 年月日 摘 要 図Ⅱ-53に製品設計のしくみについて述べる。このフローは技術科を中心としたステップであるが、製品品質基準がそのスタート点である。そして市場ニーズ、基準書の各項目について漏れのない設計活動を推進するためには技術科だけの努力ではなされず、公司+設備科、製造車間等関連する部署との連携を強めることもまた大切なことである。



図Ⅱ-53 製品設計のしくみ

設けられた会議等とその目的を以下に述べる。

① 外部団体と共同研究 : 新紫材製品が増加し、専門分野の力を活用する。

② 金型起工検討会 : 金型起工時に,製造職場,設備科の要望を入れ,事故

を減少させる。

③ 研究開発評価会議 : 市場ニーメを明確にし、開発の目的を明確にする。

また開発品の品質がニーズにマッチしているかどうか

を評価する。

④ パイプ・継手品質会議 : 市場に出ている製品の品質を評価し、改良方向を明確

にする。

⑤ テーマ選定会議 : テーマ、予算、スケジュール、および担当部署を明確

にする。

⑥ 設計評価会議 : 製品設計後、各部署の評価を受け、設計段階の<sub>関れを</sub>

なくする。

#### 2-4-3 金型製作

#### (3)-1 現状と問題点

大、小23の工作設備を持ち62名の人員で作業が行われ、金型、サイジング等の設備 はほとんど当工場で製作されているのが現状である。この段階では工作機械の設備管理の 問題もあろうが、製作者の技術力に負うところが大きい。いうなれば図面寸法と現物を一 致させる技術である。

検査の段付きゲージ寸法については前述したが、この単純な形状の出来上がり寸法が固面寸法と最大 0.2 % も差のあるのは技術力の面から見れば、精度が高いとはいえない。 この基準値との差を表 II - 6 6 に示す。

基準寸	法値	10	1 1	1 2	1 3	14-	15	16	1 7	18	19	2 0
	<i>N</i> a 1	0.1	0.1	0. 1	0.1	0.2	0.2	```0	· 0 .	0 -	0.1	0
基準値 との差	No. 2	0.1	0.1	0.1	0.1	Ô	0.1	0, 1	0. 1	0, 1	0.1	0
	<i>16</i> .3	0	0	- 0.1	- 0.2	O	0	0 ~	0	- 0.1	- 0.1	0

基準	寸法	1 0.5	1 1.5	1 2.5	1 3.5	1 4.5	1 5. 5	1 6.5	1 7.5	1 8,5	1 9.5	2 0.5
	Na 1	0	0	0.1	0	0	- 0.1	0	0.1	0	0	0
基準値 との差	16 2	0.1	0.2	0.1	0. 1	0.2	0. 1	0.1	0.2	0. 1	0.1	0
	16.3	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0	- 0.1	0.1	0

ゲージ類はその機能から最も精度を要求されるものだけに、まず製作に対する考え方の 水準を高める必要がある。

一方,金型製作では特に仕上げに問題がある。金型の表面を観察した結果では旋盤仕上げで完了としている節があり、かつ、極部的ではあるが旋盤バイトの切削跡とも思える最い傷の部分がある。この状態では、樹脂の流動性を悪くするのみでなく、ブレートアカト

等を促進し、成形のロングラン性を失くしてしまり結果となる。この金型仕上げの精度を 高めることは、現場成形段階での製品品質を高める結果となることは明らかである。

次に12月度における当工作部門の作業内容について列記する

1. サイジングスリープ 4件

2 金型(キャピティ) 1件

3. 押出機の軸修理 2件

4. 攪拌用カサ歯車(新作) 2件

5. 600シリンダー 1件

6. 切断器部品 1件

上記は主要なもので計画にもとづくものである。しかし突発的修理も多く、その 40% の工数がそれに当てられる。

サイジングスリープ4件の製作は多すきる。このことはサイジングスリープの日常管理の 問題もあろうが、その内容は前述したので省略する。

この工程では仕上段階をきめ細かくやること、そのためには旋盤仕上工程ではその切り 込み速度と送り速度に細心の注意を払う必要がある。

### (3)-2 対 策

製作は設計段階の問題ともいえる。この段階で製作者との話し合いが、どの程度なされるか疑問である。

設計と製作者の間では、製作図面の段階、中間、そして機械加工完了時打合せを持った 方が良い。特に中間は場所が工場内だから、自ら製作場所に出掛け、その出来ばえが自分 の意としている方向かどうかを確認すべきである。この場合は新仕様の製作時であり、既 存製作では中間チェックは省略されるだろう。

この標準については図 [[一17で述べたとおりである。

製作精度については、0.02%で管理していると聞くが、これは製作者の問題ではなく、設計段階で明記されるべき事項であるうが製作精度も前述のとおり問題点といえよう。

通常,前述の検査ゲージ類は 0.0 1 %程度の精度が要求され,他は 0.0 2 %程度で管理される。しかし問題は測定器具である。主にノギスをその測定器具として使用しているが、これではその精度は自ずと決定されることになる。いい技術者が存在していれば、これら測定器を準備するだけでもその精度は高まるであろう。測定器としては、つぎの器具が考えられる。

ダイヤルゲージ

## 内径キャリバー(ダイヤルゲージ付) 次は仕上げのステップを示すものである。

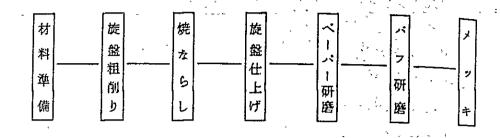


表 1 - 67 仕上げのステップ

	*V°	
仕上げのステップ	仕 上 程 度	
位上ののペプラン	標 準 範 題	, · · · .
旋盤仕上	128 12~258	,
~ - ~ - [	1.5 S 1,5~6 S	*
パァ仕上	0.4 S 0,1~0,8 S	
メッキ仕上	3/100% 3/100~5/100	T I

前述のとおり、旋盤で完了していると考えられる製作が多い。例えばペーパー仕上げをしているとしても、更にきめ細かい仕上げのステップを踏むべきである。パフ仕上げまでは標準作業とし、最良の鏡面仕上げを得ることに努力することは、この後の製造工程での品質を高めることは前述したとおりである。この段階で成形に供することはできるが、更にメッキ工程に進むことが望ましい。この場合、メッキ前に細部にわたる仕上り状況を確認する必要がある。(表 II - 67)

工場の使命は良質のパイプを生産することにあることを忘れるべきでない。そのための 環境整備を積極的に行うことは、その効果を確実に得ることができることを約束する。

### 2-4-4 検 査

#### (4)--1 現状と問題点

製作完了の設備は生産取場に渡される。との時の受け入れ検査は明確でない。従来、依頼部署がその製作図に照らして受け入れ検査を実施する必要があるが、前述のとおり、現状の測定器具ではその精測は困難視される。しかし、ノギスであってもその受け入れ検査は可能な限り実施すべきであり、しかも目祝で不具合点を充分指摘できる個所もあれば、

これを実施するだけでも製作の品質は向上する。

種々の標準はあったとしても、その実行が伴わなければ無意味である。現在の標準を実 行することが先決であり、その後に改善が続くとしてもしこく簡単なことであろう。

## (4)-2 対 策

とれば単に検査の問題だけではなくて企画, 設計, 量産までのフローの中の位置づけとして, 標準化されるべきであろう。

表 I - 6.8 に示すように製作部署での寸法測定表の作成,そして受け入れ側,当工場の場合,技術科が受け入れ検査報告書を作成する。

表『-69にあげたのは、金型受け入れ検査報告書の一例である。金型以外の設備製作物については仕様書、製作図面等で代用する。

これらのフローについても併せてあげる。受け入れ検査だけではなく、安定量産まで設備科がフォローしているところを注目願いたい。

表 [ 一 6 8 金型検収記録

.r.∈	-   方点		-		箇 i	行。 結果	į			-	SÃ.
		T		L	?	. C	φ		T: 2	リアランス	100
		图寸	1.	子前・	· ( /-/=15 )	<b>ノーキ 町</b> *	-	vキ9マ )	メルチ前	1 1/2-16	기 기
			7.7	26.2	1-255+2	1255+	./2	666	6.76±2.	<b>开入达</b> 代	7
	₹470	Ì	1/4	2.06			1/25	5,50	6.7.	3.77	
出出			2!	:				•		1 //	-
	テーパー	*	5	•	-				福	南。	
	1,1-9	-	4	l		3	1/2	5 5 35	,		
满		別寸	5	ś	-	4.7	į -	:	,	2	Q
			G	-		, -	1/5:	(6)	0		
		-	7		•		2 .	د. د د د	⊃ <del>(</del>	<u>}</u> 3	
			8				<u>•                                    </u>	<del></del>	e 0		
			·	0,26	37277	126.54	: : /-2	2	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	0,	
美		周寸	<del></del>	<u> 335-</u>	<del></del>	34.			<u> </u>		-
小田油	ノギス	317		32 <u>l</u> -		345		<del></del> -	5	<u> </u>	Ω.
					; c	J B	-{	K		سميد ا	1
	ナンド ヤーパー デロマロ	オエエ	:u, <del>{</del> } =	:-	. 5	1	. 1	1	<u>- T</u>	そのた	-
相可能	西语	·	)다 <sup>년</sup> 	<u> </u>		1	1-	. !			0
ाँचा ।	中門	رت ن						' ì			-
설  -	功能力士	111	· · ·		<u> </u>	<u> </u>		_ <u></u> :	* 51		
	मृन्धु		· 지역	 		<u>,  </u>	1		<u>,                                    </u>	-	$\cdot$
$\neg \neg$	Fijiv		深。	0	<u>: ナン</u>		<u>,                                    </u>	<u>, , &lt; ;</u>	<u></u>		<u> </u>
77 ] 10 j	75.3 45.7	======================================		— <u> </u>	- <u></u>		- <sub>اسر</sub> ا	<u> </u>			
ন	ギス	拉		- C	1	<del> </del>					
	<del></del>	급하	<u>-</u> [2] ت		刺习		<u> </u>	<u>                                   </u>	<u> </u>	= 1.17	440 440
その	ſ		<u> </u>	<u>-</u> <u>!</u>	///	<b>⊣</b> '	-	-	říl-		432
٠ ٣	<b>ごイフロ  </b> 	<del>-                                    </del>	·	·		- <del>-</del> ^ ^ ~~ ~~	瑶.	<u> </u>	トボルト	<u> </u>	7
1 4	/ ギスト		<del>-// . k</del>	<del></del>		一 木	. पंगा		T· +-, h)	<u> </u>	· \$.758
寸井	8 7-5		<u>.</u>	<u> </u>		ジル	日やせ	<del></del>	お小衣		
į	-	-		<u> </u>		帝	t	·fore	*5 印		[F
= ;;;	をは	<u> </u>	1(2/-12	<u> </u>	1 = 13 6		1			<del></del>	
-	-	2	(÷		5 4		ハぞ	144.			
	-	7 1/2	- <u> </u>	<u> </u>	: 4			,			
			<u> </u>	- 	<u> </u>		~, -,	,, , , , , , ,			

パイプ金型受入れ検査報告書	実施にあたって		管理資	实施资	T	
(本) 金型番号	] ` ' ギス・マイグロ		任者印	任者印		
接 (国名(サイズ)、金型番号 実施日	」。 し等を使って製	作図面に適合	l T		備	考
<u> </u>	しているかを確	思する。	]			
	<u> </u>					
i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	, '				<del></del>	
# 1 5 V F	] - *	) ヒーター回り	寸法 -		ł	-
1) 出口在		)セットポルト用		Н		
(で) 平行長		) 樹脂通過面及び.		. H∶		
パンスリ合七部から先端までの長さ		) 吊り具用ネジ		- ⊢		
ロ) イスリカー 在 カウ氏 はまでの 長さ ニ) ブリック側の 任 2 コ 出 行 長 カ) 平 リ 行 長 カ) ア リ カ		7 111 2 <del>24</del> 111 4 2	E C III II	Ļ		
					; }	
	<b>1</b> ``, '\	<b>.</b>		<u></u>	I	ĺ
(1)出口怪 (1)		) 袋面及びスリイ			1	ĺ
的平行及	'g	)。補助コアー用ネ	/の大きさ及び(	深さ []		ĺ
ハ)スリ合も部から先端までの長さ		i i				ł
饕 =) ブリッジ餌の狂 ジャー・・・・	J. **					- 1
			,	_		J
3 7 9 7 9 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		* .	,	-		- 1
(1) 内征,外征		)セットポルト	征及びPCD			1
ロ) 名ブリッジ部の厚み及び厚さ	] i	) 樹脂通過面及び2	スリ合っ宝の仕			- 1
ハ)ブリッジの福	<b>4</b> " 1	) アイポルト用				
=) ヒーター回り寸法				, LJ		]
			·			İ
1 1 NE- 1		". Lateria in the company	^ = ~ # t	🗆		
* ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *		)表面及びスリ	e-xocl	:" LI		
イ)ブリッグ側径				J		
ロ)先端の征及び平行部の長さ	-	,		İ		l
へ)スリ合せ面からの全長	)					
		-				]
5. 金型台部						
1) ブリェジ側径	<u> कि</u>	) セットポルト用	穴径及びPC	D 🔲	3	
中)金型入口部径 ( )	· ~	的指述透面面及びス	「自合七面の仕」	:17 🗍		
ハ)スリ合七面とブレーカー合七面の長さ	· •	アダプター・	プレート取付	*		ļ
=)ヒーター回りサ法	, ,	ルト経及化門				ļ
` \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \						
6 722.2.3.	-					
们 <b>是</b> " a	<u></u>				-	
•) <b>E</b>	-			_		
	-	=	-		-	ļ
ころ 植助コナー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	-		·		_
1) ネジ怪及び長さ						
中)外任	· ." -)	表面仕上げ		$ \cup$ $ $		
	,			1		1
つ・全、共						
	-					İ
8. 援助プレート				ļ		ſ
1) 外 狂	_ =)	厚 み				j
P) ナポート用大任	-					ļ
へ) 表面仕上げ	**			-		- 1
						- 1
9 組み立て	-	* *		]		}
がかいよ	・ 1サザドカムアッリム・	<b>ら北部に爪の掛</b> に	るよりな段付	<u>a</u>		
	·	-				ł
(ロ) ランド・ブル はの ロルバー		Krabaria → I.		H		1
へ)全型台部、ブリッジのスリ合わせにか 三)補助コアーナジストは	(のあるような以びを)	ウス株 V 7 7 tg		HI		- 1
=) 補助コアニュングラングスリ合わせ部	5亿小の掛るような段。	丁をか無いか。		HI		ĺ
	: 段付きが無いか。		-	HI	-	}
つしょうしたなの程が無いか。	-			-	>	- 1
「 ' ボルトは入るか。 」) オ	・ジが曲って切ってなり	<b>Λ ⊅</b> •	. x	. []		- 1
	ンド・ブリージ金型で	合部とのピッグに	1分っている	"·•HI	*	ĺ
(1) 手	で大部分入るか。					

金型受け入れ検査規定に、部門別の管理責任を明記してありそれを抜粋する。 部門別の管理責任は表 1 - 70 のとおりとする。

表 1 - 70 管理 任 (例)

			<u> `                                 </u>
部門	形 態	管理責任者、	<b>実施</b> 費任者
	新規金型起工	技術 1 課長	担当係長
継 手	金型 改造	"	7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	金型修理	工務課長	金型係長
	新規金型起工	技術 1 課 長	担当保長
パイプ	金型 改造	,,	#
	金型 修理	押出成形課長	押出成型係長
	新規金型起工	技術・開発室~)ド	担当係長
成 形 品	金型起造	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	12.
	金型 修理	工務課長	金型係長
7/h ±±	新規金型起工	技術2課長	担 当 係 長
建 材 (預とい)	金型起工	N 7.5	s
	金型 修理	工務課長	金 型 係 長
 1% 144	新規金型起工	設備機器課長	設計係長
設 備 機 器 エネルギー機器	金 型 改 造	"	. "
-	金型修理	"	, " " " " " " " " " " " " " " " " " " "

### 2-4-5 保 管

### (5)-1 現状と問題点

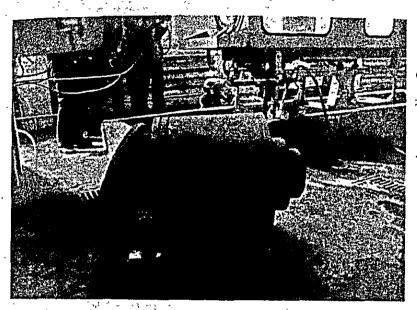
金型,サイジング等は生産取場の建屋内に保管スペースを持ち、そのスペースに棚を設け管理されている。その金型には途油され、防錆処理がされていて、その管理担当者のキメの細かさを見ることができた。たた金型は焼却解体されるので、その後の金型研磨作業に多大の工数を必要とするだろうと想像した。しかし、整備場に研磨治具はなく、表面付着物を紙ペーパーで研磨する程度であった。いわゆる保管までの過程が問題であろう。

金型重量は大半は軽く、手動迎搬が可能を程度ゆえ棚保管で充分であるが、重量物になると現状床に置く以外なかろう。

現有する硬質塩ビ管用金型は、他部署より受け入れたものの運搬できる設備がなく、根

核様に放置されたままである。解体方法,機械への取り付けを含め、手で持ち運べない金型の移動方法は検討する必要のあるところだ。この面から見ると、現在の保管スペース、保管方法は今後大きく変化するだろう。

### 写『一40 PVC用金型



現状では押出機への取り付け及び保管場所,運搬方法がなく押出機様に置かれている。

### (5)-2 対 策

保管を考える時、まず手動運搬のできない重量金型の運搬方法をどうするか決める必要がある。

この取場にはチェーンプロックもなく、金型交換等も行われているので、プロック毎に 組み立ててサイズを交換しているものと想像される。

とのままサイズ拡大を計れば、保管を含めその管理は先程の塩ビ金型同様放置型となるであるう。

重量金型の上下移動は、チェーンプロックを使用する。許されれば電動の方が望ましい。 そして、横移動には金型台車を作成し利用する。保管場でもこれを下ろすためのチェーン プロックを必要とする。この設置は将来計画を考れる時、現状の4倍程度のスペースを必 要とするが、その場所としては、現在の修理場(現保管スペースの反対例)をあてるのも 一案であろう。(表 11 — 71、72)

表 11 一7 1 成形金型日常点檢喪

섥

型

倒

年   年   年   年   年	AB AB AB AB AB										,								·	
年 年 年 年	m / AB / JB / JB / J			五	理	面	理	珥	臣	ĬĬ.	1000年		数	ジャング ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	A Company of the Comp	*2		式		
和 方 法	法 判定 选勒 処 的	手 メッキハゲがなきこと 修 現	事 キズがなきこと 毎 理	ス 出円に当たること 修	F メッキハゲなきこと 修	手 キズがなきこと 俊 現	3分3.9.4.8.2.2.9.1 体	袋	手 キズがなきこと 修 刃	手 メッキハゲなきとと 修 見	手 キズがなきこと 修 見	お田に当たること 毎	ぎををゲージが山に入 交	X	服 岩ををゲージが山に入 交 換	和当者	作戏员	· 杂		
管理 垣 田 開語	梭部位 点被項目 同的 点 核 方	目校僚	田田田田	スリーをお同りをも確認し、一人をも確認し	日祝敬	回被例	発悟 グラース・ゲーツ	超路四 医 并 、 又	サス時回故類	回被免	田祝	スリ合せ面 ホーナンにアメ	1	アト・・メージ	曲 が り にチゲジ目扱	(修理内容等記入の事)		¥		-
	点檢	 	<u>*</u>	<del></del>	H 점	п		<u> </u>	- デ カ	倒	Z 10	苑		*		1 記	[*   			

五 次 (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	,	*			
金拉名 金面形 (5) (6) (7) (7) (7) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1					
金須名 金預務 緊急問別 (4) 故 切 内 容 (5) (5) (6) (6) (6) (7) (7) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	IR3 fel	#3 fd			
金 点 名 [(3)] (4)			<b>3</b>		***************************************
命 近 名 [(3)] (4)		0)			4. 公安
(3) (4) (2) (4) (5) (5) (6) (7) (6) (7) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7		5 to 5 to 5 to 5 to 5 to 5 to 5 to 5 to	H 11 2/ E		りた選所 で a )計画保全(活型) ペ予防保金>の集合に在記入の必要なし ・予防保金の集合にその実施単曲・計画保金の場合在その及容
(3) (4) (2) (4) (2) (4) (2) (4) (1) (1) (1) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2		ě	¢		減所 )計画保全(治な )計画保全(治な )が保全>の場合に 妨保全の場合に
- 1. "   All		\$	8		)年月日 )明後保金または予防保金を行った )明後保全(佐路)予防保金(FNM) )一次故盟の内容,保全租別が一次故盟の内容,保全租別が(大)
	-	(3)	E H		金金を乗りるの名を入りの名の名を入りの名の名がいる。
	金	(4) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	E E		(2) 年 (2) 年 (2) 年 (3) 年 (4) 十 (4) 1 年 (6) 1 年
(z) (z) (Z) (Z)		बि	77 2		名

1 - 169

# 2-5 射出成形製品(管継手)の生産状況

### 2-5-1 現在の生産実績

休止中の2台を含めて11台の射出成形機を保有しているが,それらはPVC継手専用機として使用されている。次表は1982年度の品種,サイズ別の生産及び販売量の計画と実績を示す。(表  $\mathbb{I}-73$ )

表 1 - 73 射出成形製品の生産量と販売量(1982年)

(単位:K<sub>2</sub>)

	T	Y	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(単位:Kp
項 目 製品名称	計画生産量	<b>実際生産</b> 量	計画販売量	実際販売量
単叉口頭 75×75 45°	2640	2946	2000	1811
" " 100×100 45°	190	194		
<b>商 頭 100×100 45°</b>	8530	8868	2500	1062
" " 75×75 90°	300	315	150	90
三 通 75×50	780	904	300	224
" " 75×75	1260	1352	700	650
元	4590	5060	2000	1715
" " 75×75	1860	1941	1400	1494
" " 100×100	1320	1393	900	802
大 小 頭 100×50	480	499	200	189
" " 140×100	7960	8450	1000	743
三 通 100×50	3600	3882	600	593
" " 100×100	2470	3731	1000	902
存水 湾 100×100	4350	4508	1000	964
地 漏 蓋 50×50	1800	1856	1000	909
地 漏 50×50	3900	4296	1000	909
斜外三通 75×75	1020	1190	200	110
" " 100×100	400	486	300	3 2 0
膨張带蓋 50×50	780	847	2004	176
膨 張 帯 50×50	80	8 5	÷₋ 85	8 5
膨張帯蓋 75×75	4 0	4 8	- 48	4 8
膨 張 带 75×75	160	177	150	139
膨張帯蓋 100×100	3000	3040	1000	923
膨 带 100×100	3000	3040	1000	923
掃除口蓋 50×50	200	208	100	77
掃除口 50×50	6 0	6 7	6 7	67
掃除口蓋 75×75	5000	5550	2,00	1 6 3
掃除口 75×75	270	280	200	163
掃除口蓋 100×100	960	989	500	570
掃除口 100×100	260	292	292	292

# 表『-74は前述の生産量の月別詳細である。

表 II - 7 4 射出成形製品の月別生産量

	· 	- `	1	r <del>i</del>	T	<del>T</del>	<del></del>	<del> </del>	(単位	拉 Kg)
製品名称		**	. 6	- 7	8	9	10	11	12	<del>fil</del>
曾 樋	計	画	190	80		30		20	1000	1320
100×100	爽	<b>際</b>	196	81		32		24	1060	1393
大小頭	計	画	80	400						480
100×50	臾	際	82	417					<u> </u>	499
<i>"</i>	計	画	60	4900	3000					7960
140×100	実	際	60	4984	3406					8450
三通	計	画	400			700	500	400	1600	3600
100×50	実	際	438			780	552	432	1680	3882
# #	計	画	400		370	900	650	100	1000	2470
100×100	臾	際	421		370	930	690	150	1170	3731
存水湾	計	画	450			1700	200	300	1700	4350
100×100	爽	際	469			1770	200	330	1739	4508
地漏蓋	計	画		200		700	900			1800
50×50	実	際		256		700	900			1856
地	計	画	1200					700	2000	3900
50×50	実	際	1292			-	-	747	2257	4296
斜外三通	計	画				1000	20			1020
75×75	夹	際				1170	20			1190
// · //	計	画	300	100						400
100×10045°	爽	際	354	132						486
膨張带蓋	計	画	80		700					780
50×50	爽	際	85		762					847

表『-74(続き)

							,		
	,		, '\	- ,				,	T.—
-	_	6	- 7	8	9	10	11	12	計
計	画		~~		20.0	0 . 600	40	-	2640
*   庚	際				2260	640	46	÷ ,	2946
- 計	. 画	19	0		,	·		1, 2	190
実	際	194	1	,		,	- 1		194
計	画	1600	) (	4000	3 0	600	600	1700	8530
実	際	1631		4159	3 0	600	684	1764	8868
計	画			* (^,	, , ,	, ,		<i>&gt;</i> •	1
臾	際								
計	画	**	,	, ,		1			
実	脎			- 5	n- 12	r		,	
計	画				2 . 1	, "1			,
與	際	-	-		2.3	<del> </del>			
計	画	4 0	_	Fr	· -,	,	90	170	300
奥	際	47		,	v	- , , ,			315
計	画	-	150	30	600	- 1			780
奥	際		180	38	686			-	904
計	画	-	60	-	1200	14			1260
実	際		62		1290	, ,	- 1		1352
計	画	90	4500	, -	, ,		- , ,	" -	4590
奥	際	9 5	4965			-		<del></del>	5060
計	画	700	40	450	2 5	-	650	. :	1860
奖	際	714	47	480	, ; , ,	24	l		1941
	計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計	集計集計集計集計集計集計集計集計集計等計與計集計等計與計與計與計與計與計與計與計	計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計 実 計	計	計画   190	計画   190   200   226	計画       2000       600         実際       190       2260       640         計画       190       2260       640         実際       194       30       600         実際       1631       4159       30       600         計画       40       30       600         実際       1631       4159       30       600         実際       1631       4159       30       600         実際       1631       4159       30       600         実際       180       30       600       30       600         実際       180       38       686       686         計画       60       1200	計画       2000       600       40         実際       2260       640       46         計画       190       2260       640       46         計画       194       4000       30       600       600         実際       1631       4159       30       600       684         計画       4159<	計画       2000 600 40         実際       2260 640 46         計画 190       2260 640 600 600 1700         実際 194       4159 30 600 600 684 1764         計画 200       4159 30 600 684 1764         計画 200       4159 30 600 684 1764         計画 200       200         実際       30 600 684 1764         計画 200       30 600 684 1764         計画 300       30 600 684 1764         計画 90 40       30 600 600 600 600         実際 3180 38 686       38 686         計画 60 1200       30 600 600         実際 62 1290       1290         計画 90 4500       20 650         計画 700 40 450       20 650

表 11 - 7 4 ( 続き)

	*	7		<del>`</del>					
製品名称		6	7	- 8	- 9 -	10	11	12	計
膨 張 帯	計画	<u> </u>							80
50×50	実 際	85	` -				1		85
膨張帝蓋	計 画	<u>-</u> .		-		4 0			40
75×75	実 際	4 474				48			48
膨張帯	計画	ų į	r			40	120		160
75×75	実 際	1 .				48	129		177
膨張带蓋	計画		3000	-					3000
100×100	突 際	, ,	3040	, .		-			3040
膨 張 帯	針. 画		3000						3000
100×100	実 際		3040	-					3040
掃除口蓋	計。面	200	4						200.
50×50	実 際	i 1	w 1	-					208
掃除口	計画	60	,						60
50×50	実 際	67	y *		-	•			67
掃除口蓋	計画		,	5000					5000
75×75	実 際		1 ,	5550	Ĭ				5550
摄除□- <u> </u>	計画	100	100				70		270
75×75	実 際	,1,00	105	-			75	- "	280
掃除口蓋	計二面	.: 60	900						960
100×100	実 際	60	929						989
掃除口	計画	. 60	100			100			260
100×100	奖 際	60	120	-		112			292
			<del></del>			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

### 2-5-2 生産能力

### (1) 生産設備能力一 [

現行の成形所要時間から,現用の射出成形機の生産能力を算定すると表 1-75015 になる。稼動率 60 %とした場合の生産能力を()内に示した。これらの数値からは、今後 2~3年間における当工場での増産計画に対して充分,対応できるように考えられる。しかし,現行の所要時間での製品の外観状態は,通常での良品の域に違していないので,現用の射出成形設備の場合,成形作業条件,特に成形所要時間の大幅な変更が必要となる。

表 11-75 射出成形製品の可能生産量(1)

機号	名 称 スクリュウ径	<b>抜用</b> 樹脂		平均 (Kg/時) 時間当り生産量	平均(Kg/日) 月間生産能力	年間(\$/年) 生産能力	備 '考
1	XS-2Y-2000 Ø100	硬質 PVC		×0.6 3 0	×0.6 1 8,0 0 0	-	1 カ月 25日×24時 = 6 0 0時間
2	XS-2Y-2000 Ø100	n.	42.52 (600T 100)	3 0	18,000		1 年 600×12 = 7,200時
3	XS-2Y-2000 \$100	Я	24.12 (三通100×50)	3 0	1,8,000	-	- 7,200時 製品効率×稼動率 (75) (80) = 60%
4	XS-2Y-1000 ¢120	Ħ	33.19 (T水トラップ)	30	18,000		とすれば 1440×06
5	XS-2Y <sub>1000</sub> A	,,		3 0	18,000	*	= 864 \$/年 = 72 \$/月
6	XS-2Y-500 665	R		1.5	9,000		
, 7	XS-2Y-500 Ø65	,,		15	9,000		r 3 .
8	XS-2Y-500 ¢65	,,	1 8.4 3	15	9,000	- 1	*
9	XS-2-125 ø	,,		<b>5</b> (*	3,000		, , ,
10	XS-2-65 ø	n		( 運転実積無 )	- / 1 ,	4.95	
11	XS-2-65	"		休 (運転実積無)	,		
計					×0.6 1 2 0,0 0 0	×0.6 1 4 4 0.	

可能生産量 864 \$ /年

72 \$/月

# (2) 生産設備能力一 🛚

現行の成形条件、特に成形所要時間を修正して、現用の成形材料で良質な製品を成形する場合の現用設備の生産能力について、3 交替勤務制を採用し算定した数値を表 II - 7 6 に示した。この数値から当工場における1985年までの増産計画に対しての成形設備の不足が考えられる。

表 11 - 7 6 射出成形製品の可能生産量(2)

機器	名 称	摘用 樹脂	(Kg/時) 時間当り生産量	(Kg/時) 月間生産抗	年 間 生産能力	備考
1	XS-2Y-2000	硬体 PVC	2 0	1 2,0 0 0		製品効率×稼動率 (87.5) (80)
2	同上	#,	20	12000		= 70%とすれば
3	同上	#	20	1 2,0 0 0		972 × 0.70
4	XS-2Y-3000	·//	25	1 5,0 0 0		= 680\$/年.
5	XS-2Y-1000A	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(半年間故障)			= 56\$/月
6	XS-2Y-500		15	9,000		
7	间,上	#	. 15	9,000		
8	间,上		. 15	9,000		
9	XS-2-125	,	5	3,000		
10	XS-2-65	וז	廃 棄			
11	g	<i>!!</i>	同 上	-		
計	· , .			81,000	972 <b>\$</b> /年	

可能生産量 680トン/年 , 56トン/月

### 2-5-3 品質状況

当工場の製品は外観が悪く、大半が良品の域に達していない状況にあり、その製品の使用目的から考えても、速やかな改善対策を要するものである。そのためにも後述するような、 規格類の整備や作業の標準化等の明確化が必要となる。

#### 2-5-4 設備仕様



写『一41 成形工場設備

表 Ⅱ 一 7 7 射出成成形機仕様

		1	4 7 4 4 4 4					
	,	(射出成形機名)						
	単。位	XY-2Y-3000	XY-2Y-2000	XS-2Y-1000A	XS-2Y-500	SSA-125	XS-2-60	
到有方式	,	直 圧	ダイレクト・ロック	直圧、	トグル	トグル	トグル	
持カ	\$	630	630	450	350	90	50	
関放力	\$	45	1125				İ	
ガストローク ガストローク	ES ,	2080	1400		950			
デーライト	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	2040	700		950	300	380	
ディバー 間隔 能 (HXV)	<b>231</b> .	900×800	698×190		540×440			
アイブレート寸法 (HXV)	153	1325×1370	860×860		810×810	!		
小型厚	1023	400	300	300	300	200	300	
型開閉速度 型時(高一低) 型開(高一低)	m/sec	(0.35-0.05) (0.30-0.04)	(168-0.04)	-	,			
出ストローク	82		300		300			
型語ラム 径	trant	690×2080	· ,					
型特例油圧	Kg/cm	210			70			
スクリュー形式		インライン。	インライン	・ インライン	インライン	インライン	インライン	
スクリュー外径	77 <b>225</b>	120	100	- 85	65	42	38	
えクリュー長さ E	ER.	2195	1582		1400		-	
ネクリュー圧縮比	· ·	2.5 8	2.63	- 1	1.57			
゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	} 	1.8.3	1 7.6	-	2 1.5			
スクリューク	<b>100</b>	340	- 320		200			
スクリュー回転数	rpm	125/125	21~83	21~83	20/80	29~102		
出出容量	9	3000	2000	1000	500	125	60	
# 出 24	cd√sec	780	2480		665			
出出速度	m/sec	8.6	0.363	-	8 0.0			
新	Kg∕h	240 (ポリスチレン)	120 (ポリスチレン)	-,	45 (ポリスチレン)			
*,パー容量	e.	150	100		50		-	
<sup>財出</sup> 圧力。	Kg/cml	875~1125	= 1210		1040			
出出力	\$	127	95		34.5	}		
<sup>田田</sup> 倒油 圧	Kg/n2	140: 5	140 - 140	-	65			
パメル押付圧力	\$	17	10	, <del>-</del>	1.3	-		
- ,								

表Ⅱ-77 射出成形機仕様(続き)

	» <i>t</i>						
	単位	XS-2Y-3000	XS-2Y-2000	XS-2Y-1000A	XS-2Y-500	SSA-125	,, <u>,</u>
射出ラム型	22	340×340	295×320		260×	2011 123	XS-2-60
背 压	Kg/cml	0~35	0~25	,	0~15		
ポンプ型式		形式压力流量					
İ		1 6 3M 210 60	<b>!</b>	,			
:		24 2C149 -FF 140 24 194	<u>.</u>				
		3   1/18-   3   048   140   48     4   同 上   同上   回上					
吐出虚	L/m	63	大-192 小- 48	*	大-200 小- 25		
吐出圧力	Kg/cm	210	校高 - 140 作用 - 60	١, ٠,	<b>敬高-65</b> 作用-50		j
뜁 源	V/Hz	380/50 (モター) 220/50 (モター)	380/50(モター) 220/50(モター) 220/50 (操作回路)		380/50 (モター) 220/50 (モター) 220/50 (操作回路)		
ポンプ駆動用 モーター		中国·JO 2P,45KW 960R·P·M	中国·JO 3P,40KW 960R·P·M		中国・JO 3P.22KW 960R·P·M	, ,	
スクリュー駆動用 モ ー タ ー		中国·JO 4P,37KW 1400R·P·M	中国・JO 3P,15KW 960R·P·M	45	中国・JO2,- 2P,7.5KW 960R·P·M	10	11
ヒーター 容 量	KW	40 (ゾーン5枚)	15.5(3.5,3.5, 3.75,4.25,0.5) (ゾーン5枚)	13 🕠	12(28,28, 28,33,03)	4	
油圧中子装置	柦	3	1_	4	, , ,		
取出口径		15	15		÷ ,,		
圧 カ	Kg/cm	20~30	20~30	<b>N</b>	*	ı	
ノズル半径	φ	18	18		12	-	
ロケートリング 外 径		i	150~200		150		
機 械 寸 法 (L×W×H)	m	11×2.9×32	7.4×1.7×2.4		6.5×1.3×2		
機械重量	\$	4 8	20				فعر
年 式	年	1979	1978	1978	1981	1976	1974
製作国名		中国	中国	中国	中国	中国	
製作会社		無錫第二軽 工業機械廠	上海型料機械廠	上海型科機械廠	天冲塑料機械廠	北京型料機械廠	宇拉里科



写 II - 4 2 射出成形機 射出容量 3,000 \$



写 II 一 4 3 射出成形機 射出容量 2,0009



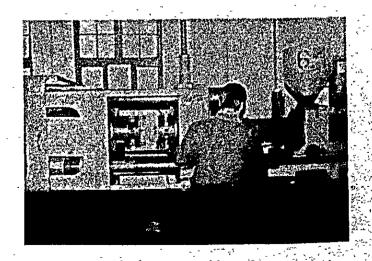
写 II - 4 4 射出成形被 射出容量 2,0008



写 II 一 4.5 射出成形機 射出容量 1,0009



写 II - 4 6 射出成形機 射出容量 5007



写 II 一 4 7 射出成形機 射出容量 5009



写 N - 4 8
射出成形機
射出容量 1258



写 11 一 4 9 射出成形機 射出容量 609

2-6 射出成形製品 生産工程の現状,問題点と対策 2-6-1 原料配合,混合,ペレタイジング

#### (1) 現状と問題点:

#### a. 篩 工 程

PVC継手用原料は、供鎖科の管理する原料含庫に保管されているが、生産科の要請 によって必要に応じ払い出される。

配合職場は4名で構成され、篩、配合、造粒、袋詰めの作業を行っている。なお、と とではPVC継手用原料だけでなく、PVC管用原料に対する篩、配合、造粒、袋詰め の作業も行われているので、その作業の切替え時に管と継手の配合原料が一部、混入す る場合がある。とのととは射出成形や押出成形に対する成形条件のパラッキとなるだけ でなく、最終製品の品質のバラツキの原因となる。

篩は60 mesh の振動式が採用されているが、作業中の状況を観察すると、篩の上には、凝集樹脂原料あるいは原料袋の外に付いていたと思われる小石、木片、紙、糸クェ等が残っており、また、篩は目詰まり状態であるが、手でたたくと、その目詰まりした物が落下し、篩60 mesh 通過物として処理される。(調査の結果では、現用篩は30~40 mesh と思われる。)

通常、PVC原料の篩別けは、原料配合作業後に実施されるべき工程であるが、当工場で原料配合作業以前に実施されているのは、恐らく、PVC原料製造業者の篩別け工程省略による原料の粒度分布や外観などの不適性のためと思われる。

PVC原料は、秤の上のタンクに所定量(50 kg)当てスクリュウコンペアで自動移送される。その後、篩別け装置に移されるが、この際、局部排気しか行われていないので、原料粉が飛散し作業環境が悪い。また、PVC原料に配合される安定剤その他の配合剤の計量は、1回の配合分当てを手動で行われているが、排気装置がないので環境が著しく悪く、作業者はガーゼマスクをしているが、前者をも含み衛生面からの改善を必要とする。

#### b. 配 合

150 L容量の高速ミキサーを安定剤その他の配合剤の添加を容易にするために開放状態で使用している。次の造粒工程に対して、高速ミキサーの容量が過大のため運転中の粉末の飛散は少ないが、原料の出入に対する粉塵防止対策がなされていないので、作業環境が悪い。

#### c. 造 粒

スクリュウ径 6 5 mの押出機による造粒装置は、老朽設備を改造したものであるため、得られたペレットのバラッキがかなり大きい。配合原料の加熱混練過程での温度調節が規正されていないため、手動での調節に等しいことや得られたペレットの処理が悪いため、一部プロック状を呈しているなど全般的に改良が必要と考えられる。

#### (2) 対 策

#### a. 篩工程

原料保管は直接地面に置かず、パレット又はスノコ等を利用して積み重ねるべきである。その際、管理しやすいようにする。

篩別け作業の環境衛生に注意し、作業終了後、篩上の残留物を除去し、室内の清掃を する。その他、全般に標準化を図ること。

# b. 配 合

安定剤などの計量は、配合作業開始前に1回分当て行うことなく、例えば、あらかじ め1日の作業回数分を計量し、1回分当てポリエチレン袋に入れて計量器の近くの棚に -用意しておくと作業性や環境衛生面の改善に役立つ。

原料や配合剤を髙速ミキサーに投入する際、その投入口と移送管とを布を利用して密 閉し、粉の飛散を防止する。その際、適当な排気口をつける。造粒装置への配合材料の 移送および投入はチューブコンペアやホッパーを利用して粉の飛散を極力防止する。

## c. 造 粒

現用の造粒装置の押出機は、適当でないので、新規に購入する二軸の押出機に取り替えるとよい。この際、スクリュウデザインの改造およびカッティング装置の調達が必要になる。なお、得られたペレットは予備乾燥がしやすいように乾燥機の近くに貯蔵タンクを準備し、移送するとよい。

# 

造粒工程で得られたペレットを貯蔵タンクから取り出し、乾燥処理後、乾燥ペレット 貯蔵用タンクに入れ密閉する。それから、所要量当て原料ペレット用台車に取り出し、 射出成形機のそばに運搬する。

原料配合, 混合, ベレッティング1)

	現	$\vdash$	<b>E</b>		47	₹6
1 篩	飾工程	<del> </del>		}		
e F	a. 供銷科から持ち込まれた原料は直接床	长	処留物中に水片, 小石が見受けられるので,	小石が兄受い	けられるので,	パレット又はスノコ等の上に聞く, 紙袋は
6	の上に置かれる。		框袋に付着することが考えられる。	こが考えられる		手でよくはたき,袋に付着した異物を落し,
			•		<del>-,</del>	その後に囲封して飾別け装配に投入する。
o	簡は1段約32メッシュの松動式で行	产	現在の品質水準では一段は少なすぎる。	られ一段な少れ	これがなっし	多段式にし、自動式に吸留物を排出させる
<b>4</b>	われる。「備上の残留物にはスケール,水	<del>*</del>	<b>度,篩上に扱ったものが再度通過することが</b>	のが再度通道	国することが	万姓吃改造する。
元,	片,小石箏が見られる。		光えられる。		-	
o .	o. 原科投入者が, ガーゼのマスクで作業		<b>参照はガーゼの目よりも細かいので、ガー</b>	まりも細かい	·07, #-	完全な防災マスクを使用する。
<i>₹</i> ।	を行なっている。	<u></u>	ゼのマスクを付けていても人体に悪影響があ	こことも人体で	に形物をある	<u> </u>
		<del>-, -</del>	ዄ		-	
(2) PV	PVO計品	- <u>-</u>			, ,	
в ў.	470チューブコンペアを使用し,直	垣	開放式タンクに直接投入するだめ, その周	1接投入する	さめ、その間	直接計量器への輸送を止めて, 中間レシー
被令	接台秤上の小タンクに投入される。この	<u></u>	田は衛生的でない。また, 安定剤の添加肌が	また,安定	司の添加瓜が	アタンクに一時貯蔵する。
<b>松</b>	輸送は篩工程作業者がスイッチを入れる	,	多いので、その既並は吸収されているが成形	言な吸収され、	こいるが成形	
ัม	ことにより開始される。	-	性の面からの品質のパラッキは大きくなる。	ンパラツギ仕力	てゆくなる。	
م ۔	b. 台秤の竿の先にセンサーが取り付けら	ۍ :	P.V. C 継手生産では特に計量工程は及大瓜	では特に計型コ	C程体最大重	ホッパースケールを使う工程とする。
<u></u> +	れ,規定批に造っしたら輸送は停止する。		要な工程であり、計	計配設備の精度をより向上	上向でよるほ	1.日1回作業前に0点の確認を行なう。
	1回で25㎏計侃ができ,1パッチに	<u>۴</u>	させる必吸がある。			
2	2回針丘している。	-	-			
	针配後の原料の排出は作業者のグンパ	<u> </u>	· -		,	
! 	一川以により行われる。		•		·	
	The second secon					

1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 100	ホッペーに強を限り付け、原料	即止する。	にもかい。 競球送信贷	配合条件, 政作条件, 製造条件等を決め、	れを配合指図書に記入し、これに従った作業	<b>★ 1 2 3 3 4 3 3 3 3 4 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3</b>	表    -7.9 参照						<b>                                       </b>				11状況が不明, / 案定利置き場は棚を作り保管する。計量器	賞理状態が期 │ も台の上に置き, 計量し, 1日の配合分だけ	を計量器の近くに並べて聞く。	問く, その精 │ 「向バッチ分計算したのか, 数鼠を確認し,	
15 Est	な ない よる 引	<b>№</b> *.	指示の間違いやトラブルが生じやす		-		,					-	原料の飛散により環境の衛生状態が悪化す	6		•	ドラム缶が多く並べられ、使用状況が不明、	安定利置き場及び計量器周辺の管理状態が悪	٠,٥	全体的に計量器の管理状態も悪く,	
郑	d. 野母数のホッパーにフタがない状態で	軒畳しているため、原料の飛散が大で周	田が原本をで由くなっている。	また、飯駅圏ななく、条件石ナベクロ	関で単格される。			(3)、配合	B 過転	上フタの開放した1504の高級ミキ	ナードPVC原料が投入され、その後巡	転が明ねされる。	また、この時、ホッパー下の配位とへ	ンシェルの間にすき間があるため、原料	が周囲に飛散している。	b  安定剤の投入	各配合剤が上皿式パネ秤で個別に計量	され、回転中のミキサーの中に一括して	投入される。		

鉄	安定剂投入孔を作る。(写 11-50)		ار الانتار			100	年11一50	5. 11 20 4 20 4 20 4 20 4 20 4 20 4 20 4 2	AXE TO DESCRIPTION OF THE PROPERTY OF THE PROP									10.		The state of the s
农	配合物,安定剂投			11				おる特別社の作品		-	ニャケー内に留い	成センサーを収り	付け、強度が所定。			カナウム, ナベカ	のバッナが回じ数。	段歴となるように、	する。(年三五1)	
ゼ	タを囲いて投入し	ういず		,			-	•						配合時間を一定にしても、歯脂に加えら	品の品質が変化す		· , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	_	,	•
鼠	配合物、安定剤ともにフタを開いて投入し	いるため,異物が入りやすい。			-		-			指令の伝送が不明確	* - · · ·	運転状況が把握できな		時間を一定にして	限歴が違うので, 成形品の品質が変化す	。(条件が不安定)	<b>今条件の確認ができない</b>		,	
	配合物	ているた			· · · · · ·	<del>.</del> .	-			<b>-</b>		2		. <del></del>	. ' ' '	ъQ. 	2	-	- -	=
茶			-		-	- - -		0 rpm	· · ·	、ため、直接、口頭指	1,50	語録していない。		20分に強すると運転を停止している	条件確認のための計器類(回転	温度計等)が無い状態や成形してい				
現	w-		-		-		‡. ·		2配合時間 2	配合指図母がないため、	形によった成形している。	また,通転状況を記録し	d 回転の停止	20分に強すると	また。条件確認の	計、温度計等)が無	.0			
<u> 1</u>		-	1	<u>-</u>	, , <del>,</del> , ,		-	<u>,</u> ,	-18	36	3-9	, ,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,							

i	
校	<ol> <li>6面で回転し、温度が一定(約50°C)になったら排出する。</li> <li>配合約タンクあるいは配合物合車を準備する。</li> <li>受回の内面をメタルコン仕上げとする。</li> </ol>
点	で冷却しているためブロックし 田放した受用で配合物を受けて 物が入りやすく、また、その親の環境発生が混化する。 入
200	で各当しているためプロ 関友した必而 で配合地な 物が入りやすく、また、 の既先発用が現代する。 入
69	1.
¥	大 の に 型 状 配 、 思 合
郑	6. 配合物の排出 に対: キャーのダンバーを開き, 大型バ レット(間)の上に排出させ, その状態 で合むし, 塊をつぶしながら紅袋に配合 物を入れている。(写 II — 5 2)

現	鼠	坻	校
また、受用の内外面がナビている。			
c. 設備	-		
ホッパーからスクリュウに直接自然落	1. 原料の可変供給ができないため, 安定し	ないため、安定し	原料可変供給装置を取り付け、安定した成
下や原萃供給している。	た成形条件を見い出すのに困難である。	に困難である。	形条件を見い出す。
殺倫は古い神田駿を改造したものた。	2 接触で大事故につながる恐れがあり,	る恐れがあり, ま	安全カバー加をすべて取り付けること。
トーター接続部のカバー, 伝導チェーン	これ兄给しい。		いの設値は, 老朽化しているので, 必要な
(3か所)のカバー, 奴合の原籍が無い			よっては購入が留ましい。
状態や使っている。	-	-	
日本のユベイン・P		,	
大型パアット(画)の上に直接排出さ	開放された受風のため, 大気中の腹や異物	大気中の腹や異物	密閉容器(タンク)の中の空気を排出して
も, 各却した後に袋詰めしている。また,	が混入しやすく、そのため射出成形品に異物	射田成形品に異物	<b>貯蔵する方式が役もよい。またこの時, ベレ</b>
	が混入し、物性の低下をきたすようになる。	たすようになる。	ットの治却のために配管の長さは10m以上が
に手動でかき回す時に, サビも組入され	サビも成形品に悪影響を及ぼす。	及任子。	<b>虫ましい。配管が短いと粒がブロッキングを</b>
		50.	
	-		
	,		
	- - -	,	
	-		
THE PARTY OF THE P			

	我	10 超 点	校
F 45	, <b>1</b>	袋詰めしているため、作業性が悪い。	0.六型
3	(4) 潜数		原料運搬台車(フタ付き)を設置する。
1 -	a, 原本投入		
2	※、 中ので押田様 ボッパー に投入している。	1. 作業者が腰痛になりやすい。	オートローダーの使用。
* 30.	(シャボル) カのボッパーロアッかれる, 毎時	2 異物が入りやすい。	あるいは, チュープコンペアの使用を検討
	明故状態となっている。したがった破骸	3. 戦場の環境衛生が悪化する。	000
-, , ,	の周囲は粉む白くなったひる。	4. シイアウト治体に不能な点がある。	レイアケトについての核性が必要である。
	<b>押田扱のホッパーにはブリッツ防止の</b>		
<del></del> ]	ため、撹拌器が取り付けてある。		
- 18	b. ペアット 段形(条件)		
39 -	。スクリュウ谷 ゆらり	1. 成形指示事がないために, 指示が不明確。	成形指示むにより運転条件を明確にする。
Ŷ	。パインメーター設定値	である。(巡転者によって条件が違う。)	(表11-82)
	VUV#1 80°C	2 週転の状況が分らないので正確な情報の	また,運転日誌は交替組が各々1回,1日
-	ノズル 130℃	把握が不能。	3回記入する。(表11-83)
	020120rpm 28	3 温度コントロールの変励の差が大き過ぎ,	国 に に に の に と に に の に に に に に に に に に に に に に
	。押出量 75kg/時	射出成形時に品質のバラッキとなる。	を与え、ヒーターも故障しやすくなるので、
· · · · · ·	成形条件の調整については技術課で大		着対に止め、空気で冷却する方式がよい。
	体の成形条件を指示し, 職協の責任者が		しかし、基本的にはこのペレタイザーは久
	詳細の調整にあたっており, 特に成形指		点が多いだけでなく老朽化しているので新規
	<b>示弦のようなものはなく,また, 選転の</b>		購入が望ましい。
	状況は記録されていない。		

スタートはヒーターが、イロメーターの指示語版に到達した時点で選売に入っている。 また、パンル語(の関格については、パンルが自己発熱して設定超度よりも認くなり、粒のカット状況が変わってくる(粒の切り口にバリが出てくる)とヒーターを切りバレルに水を直接噴針して冷却している。 また、パンル語度が冷却されて設定面度によっている。 また、パンル語度が冷却されて設定面度によっている。(写 II ー 5 3)  ***********************************	かしてなっしない。				ř	**
の指示語版に到達した時点で運転に入っている。 また、パンル語版の調格については、 パンルが自己路熱して設定語版よりも高 くなり、粒のカット状況が変わってくる (粒の切り口にパリが出てくる)とヒー ターを切りパレルに水を直接吸引して各 却している。 また、パンル語度が各却されて設定語 原より下ると、今度は粒の調面に割れが 年じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、パンルを加熱して いる。(写 11 — 53)	か					
また、パレル国度の関松については、 バレルが自己発表して設定国度よりも高 くなり、粒のカット状況が変わってくる (粒の切り口にパリが出てくる)とヒー ダーを切りパレルに水を直接気引して冷 却している。 また、パレル国度が冷却されて設定国 度より下ると、今度は粒の副面に割れが 生じる。 この状態になって水を止め、ヒーダー のスイッチを入れて、パレルを加熱して いる。(毎11-53)	の指示温度に到達した時点で退転に入っ					
また、パレル国政の関格については、 ベレルが自己路然して設定国政よりも高 くなり、粒のカット状況が変わってくる (粒の切り口にバリが出てくる)とヒー ターを切りバレルに水を直接項外して冷 却している。 また、パレル国政が冷却されて設定国 既より下ると、今政は粒の副面に割れが 年じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、パレルを加終して いる。(毎11-53)	ている。				-	
ベレルが自己路数して設定額度にりも超 くなり、粒のカット状況が変むってくる (粒のむり口にバリが出てくる)とモー ターを切りバレルに水を直接収引して命 却している。 また、パレル園度が冷却されて設定園 度より下ると、今度は粒の劇面に倒れが 任じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、バレルを加数して いる。(毎11-53)	また、パフル強度の調散についたは、	-	,		-	
くなり、粒のカット状況が変わってくる (粒の切り口にバリが出てくる)とヒー ターを切りバレルに水を直接吹出して合 却している。 また、バレル国度が冷却されて設定園 度より下ると、今度は粒の製面に割れが 任じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、バレルを加熱して いる。(毎11 — 53)	パレルが自己路熱して設定協度よりも高					
(松の切り口にベリが出てくる)とヒーターを切りバレルに水を直接収引して冷却している。 また、バレル温度が冷却されて設定温度よっ下ると、今度は粒の測面に割れが 住じる。 との状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、バレルを加熱している。(「毎1-53)	くなり、粒のカット状況が変わってくる					_ '
ターを切りバレルに水を直接収引して冷 却している。 また、パレル温度が冷却されて設定温 度より下ると、今度は粒の週面に割れが 生じる。 のスイッチを入れて、パレルを加終して いる。(写面一53)	(粒の切り口にバリが出てくる)とヒー					
却している。 また、バレル園度が冷却されて設定園 度より下ると、今度は粒の御面に割れが 生じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、バレルを加数して いる。(写 II — 5 3)	ターを切りパレルに水を直接収出して命	,		- <del></del>		8 .
また、ベンル温度が冷却されて設定温度より下ると、今度は粒の側面に割れが 生じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、ベンルを加熱して いる。(写 II — 53)			-			
度より下ると、今度は粒の測面に割れが 生じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、パレルを加熱して いる。(写 II — 53)	また、パアが強度が各世なれた設定領			5 <sup>3</sup>	,	<i>(</i> , )
生じる。 この状態になって水を止め、ヒーター のスイッチを入れて、バレルを加熱して いる。(「写Ⅱー53)	度より下ると, 今度は粒の測面に割れが	-		2	,	
この状態になって水を止め, ヒーター のスイッチを入れて, バレルを加熱して いる。(「写Ⅱ—53)	任じる。ハーハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー・ハー			3.	-	
のスイッチを入れて、インルを加熱して いる。((写 II — 5 3)	この状態になって水や止め、ローター	•			î	
いる。(年11—53)	のスイッチを入れて、パワルを加熱して					
	いる。(年11-53)		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	`		
		, - - - -		, ,		
				,	- • · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		*	7		• •	
		8		`	٠	

# 表 I - 7 8 配 合 規 格 (例)

配布先	· · · · · · · ·	Color of Species A		3 -					
部数		* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u> </u>				
制 定 年月日		(記) 合	規	格	規格 番号			水堰印	决定印
発 行 年月日		,, HU, H	. ، ۔	,		1			
配合名	材料。	会社名	86	名	割	合	原料表	見格番	뮥
往意事項		_		•	]-			-	_
				- ,		-	検	岳J (	<b>下</b> 成

# 表 1 - 79 配合作業指図書

 発行4	年月日	年	月	B	科	2 726.73		係	* ; /	作	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
			· · ·		長			長	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	作業長	- 1 T
記 作	合 名 <del>1                                   </del>					, <del> </del>	`		·	. ,	-
		品	名	配	合比率	1	パッ	チ仕込	重量,	使	用計量器、
					- , ,	<u> </u>	`	- L	6 to heat in		
	<u> </u>				, ,	<u> </u>		- 3			
配			· 		<i>-</i> -		-		ا دوا دو	; ;	
					,		b.,	,			<del></del>
合								1_	,		,
							-,		-	,	
枭		-			*			*		<u> </u>	<u> </u>
		-					· <del>- ·</del>		· ·		
件		<del>-</del>			-					<u> </u>	
•		<del></del>	<del></del>		,					<del></del>	, -
į		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			·····		:		·		· <u>·</u>
操作	В	ender		<del></del>		-	,		7		
操作条件	混	合 時 間		•			- - -	- ( , , <u>;</u>			
Į	外	観		<u> </u>		.÷	١	- ·		,	
製	(揮	発 分)		<del></del>		7 .		\$ ^ 			* :
進	( Pi	含有量)					<u> </u>	, <u> </u>		<u>-</u>	
条 】	( Ca	含有量)		- <u>-</u>	~	-	ì		<u> </u>		
4	(熱	安定度)		· ·			` `	- ·	-	j. 1. (	4 4
	(か	さ比重)			, _			<u>*</u>			ŧ ′-
Ė			- - -				-				
	<u>.</u>	- 	-	-		′ · ·	,	ند * - * * * * * * * * * * * * * * * * * *	-		

# 表 [ - 8 0 作 菜 手 順 書

		Γ.			1			
制定年月日					-	頂事番号	决裁者印	実施货任者
改定年月日	50.4.1	押出機技	操作作業手	■順掛・	T-	-20-2		
版 数	第 2 版	** 3v	- '	,				
工程名	レット製造	•• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	· · ·			-		,
者	ットアップイ	· · · · · · ·	e#					
作 1.	安定した。	品質のペレッ	トの製造・	指	1.	押出条件	+指図	4
業の目的			• •	当等	2. 3.		、品質点検化 井点検作業3	
作 1.	ストップ	フォッチ				-		>
業 2.	その他付着	<b>芳設備の計器</b>	類				-	
具	×	· ,	, -	^ .				
-	手 * *	順				注 龙	第 事 項	
					-			
					-			

	斯 <i>爾</i> 五 75 分 本 4
作業手順	要領及び注意事項
1. 準備作業	
1) ヒーター	メインスイッチを入れパイロメーター用ス
	イッチを入れる(各ソーンのヒーターの通
	電状態を確認する)
2) サモカップル	挿入状態を確認する。(抜けているものは)
-	元までさし込む)
3) オイル	レベルグージ規定値まで入っていることを
	確認する。
() 4 4 -	注) ベレタイザーモータ用カッター歯数は
4) カッター	ペレット製造指示事の設定値が確認する。
	(刃の取り付け方,刃先の確認を怠ると,
,	鎖状に連なる)
	<b>ベレタイザーを手動にて回線し指動音</b>
•	
-	及び異常音が発生する場合は調整を行う。
5) 油圧ポンプ	押出機油圧ポンプ駆動用押釦スイッチを押
- -	し始動する。油圧ポンプ圧力がペレット製
	造指図書の規定値(20Kg/cd±0.5Kg/cd)
• ,	まで達する間ブザーが鳴る(通常1分間位)
	油圧ポンプの始動は2~3秒間隔にて断続
	運転し3~4回行うこと。点検終了後油圧
	ポンプは停止しておく。
6) 空輸系列	ベレット製造指図部に規定されたタンクド
	ダンパーが切換えてあるか確認する。 <sup>タン</sup>
	ク内にベレットが満杯になっていないか確
	認する。
7) プローアー	プロアー始動用スイッチは1回に入れず,
	ー フィメータを見ながら断続的 <sup>に駆動し</sup>
	メータが振り切れなくなった時点で継載さ
en en en en en en en en en en en en en e	せる。11目1で入れると過負荷電流が流
	れ駆動不能となる。

	•
	L sets is N
表11-81	1(統さ)
the control of the co	
作 業 手 順	要領及び注意事項
2 押出機運転開始作業	
1) 4-9-	バレル,ノメル,アダプター各部分の温度
	はスタート指図書の設定値になっていると
	と。(設定値より低いとモーターオーバロ
	ードの原因となる。 )
2) 配合粉	H-T配合粉ダンパーを一杯に開き,配合
	粉切れのないようにする。
3) 油圧ポンプ	油圧ポンプ駆動用押釦スイッチを押し油圧
3) 111124	ポンプを始勁し,油圧ポンプ,アンペアー
	及び冷却水、通水状態の確認をする。
1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 ·	油圧ゲージが 2Kg/cnlになるまで次の手順は
A Company of the second	待つ。
4) ペレタイザー	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	を押し回転を確認する。
In the same	押出機モーター回転数調整ハンドルが最低
5) 押出機モーター	の位置になっているかを確認し押出機スタ
	一ト用押釦スイッチを押し始動する。
	(回転数調整ハンドルが最低の位置にない
	と始動しない。)・
	電流は15A以下,回転数は5~7RPM/m
	であるとと。
6) チャージ目盛	チャージ目盛は3に合わせる。ロータリー
	は回転しているか、配合粉は供給されてい
The state of the s	るか確認する。
The same of the sa	•

作業手順

1 × 3 ×	具作队出 70 次网及
7) 空チャーシ	ノズルより半可塑化された原料が出始めて
	から電流が安定するまで5~10分からる
	が此の状態を継続する。
	(電流が急酸に上昇(28アンペア以上)
, '	する場合はチャーシ目盛を2に下げる。)
	電流が安定したならばスクリュウの回転を
	上げる(との場合急激に上げず電流及び回
	・転数を見ながら行うとと。)
' - *'	28A又10回転以上に上げないこと。
8) チャージ目盛	スクリュウ回転を上げた右電流が安定して
	からチャージ目盛を1目盛上げる。1度K
	2 目盛以上上げないこと。
	1目盛につき5分の間隔を置く。
9) バレル温度	ベレット製造指図書の設定値にバイロメー
	ター主標を合わせる。B2部のサモカップ
_	ルをプレーカーに差し換える。
10) スクリュー回転	スクリュウの回転数を上げペレット製造指
	図書の設定値にする。回転数は除々に上げ
-	電流が振れる時はハンドルを左右に動かし
·	安定する位置で留める。
(1) チャージ目盛	スクリュー回転数をペレット製造指図書の
	設定値に合わせた後電流が安定してからチ
. ]	ャージ目盛をペレット製造指図書,設定値
	に合わせる。
(2) 品質チェック	練り具合,切れ状態,色,粒度が <sup>限度以内</sup>
·	か確認する。
	問題なき場合は次の手順に移る。
<u> </u>	

作,菜,手,順	要領及び注意事項
(3) 空 輸	シュートを取付け吸込ノズルにさし込むべ
	レットが円滑に吸い込まれるか確認する。
	条件調整中に抜き取った原料は粉砕品とし
	て処理する。
3. 押出機運転停止作業	
1) ビーター	押出機運転停止指図むの設定値に従って各
	ゾーンのヒータースイッチを切る。
2) 押、出、機	チャージ目盛及びスクリュ回転数を押出機
	運転停止指図書設定値まで降下させる。
	(チャージ目盛3,回転数10)
3) 空 榆	シュートを取外し空袋を挿入プロアーを停
	止する。
4) 配 合 粉	H-Tダンパーを閉し配合粉の供給を停止
	する。
	ノズルより原料が完全に押出されるまで
	2) の状態を継続する。ノズル部より原料が
	押し出されない状態で押出機モーターの電
	流が15A以下になるまで確認する。
5) 押出機モーター	押出機モーター停止用押釦スイッチを押し
	停止する。
6) ポージープ	油圧ポンプ停止用押釦スイッチを押し停止
	する。
7) ベレタイザー	押出機モーター停止後1~2分置いて停止
The state of the s	する。
	(ペレシイザー停止用押釦スイッチ又はコ
	ンセントを抜いて停止させる)
	原料シュートパイプを取り外す。

作業手順	要領及び注意事項
8) サモカップル	Bz サモカップルをパレル2にさし換える。
g) バイロメーター	パイロメーター主標をペレット製造指図書
	のスタート設定値に合わせる。
10)冷却水	冷却水用バルブを閉じる。

# 表Ⅱ-81(続き)

				20.11	01			, , <u>-</u>	
制定年。	月日	52. 4. 20	,	ton es tale	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		手順遊番号	决裁者印	实施貴当者
改定年	月日	,	F		炭化時/ 業手順4		T-30-1		
版	数	第 1 版		<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>	<u> </u>				, -
工程名	<1	シット製造		<u> </u>					
作業者	ı	ットアップf 替作菜	作業	.`		-1			
作業の目的	品	質の確保。		,	7 24 10 14	指図事等			-
作	1.	メガネス・	パナー	4.	<b>バ</b> ー	بري	,		- * * * *
業 用	2	ドライバ・		<b>5.</b> '			y 1		- ,
具 	3.	ワイヤー		6.	空		<u> </u>	, *, * · · ·	
		作業	手 順	-		'		及び注意事項	
1. 第	ニッ	ュートを取る	外し空袋で	で受ける	0		突起部分に配		
2. チ	ャジ	量を0にす	る。	-	٨	0	チャーツ 1回	転調整用へ	ンドルを左へ
				•	-	廻	わす。止まるだ	<b>万まであわて</b>	ずゆっくりと。
			٠		-	٥, ١	スクリューフ	イーター使	用機はリング
•		-	•	-		.্র,	ンを 0 にする	o ;	•
3. ノ	ズル	部より樹脂	が出なくフ	なる。	,,	0 .	電流計で3.0	A以下にな	ることを確認
-			*		,	(	3 0 A以上の	場合はメイ	ンモーターを
		,	_				停止する)	·	: _
* * ·				,		0	ガスの放出に	注意する。	
								4 /2	-

## 作業手順

- 4. B1, B2,アダプター, ノズル各ヒー メーOFFとす。
- 5. メインモーターの回転を下げる。
- 6. メインモーターを停止する。
- 7 各種コンセントを抜く。
- ペレタイザーをチェンプロックで吊り上げる。
- 9. アダプタープレートを開く。
- 10. ブレーカーを外す。
- 11. スクリーン部の樹脂を取り除く。
- 12
- 13. バレル, ヘッド, ノスルダイ部の樹脂を取り除く。
- 14. スクリーンをセットする。
- 15. アダプタープレートを閉めポルトを入れる。
- 16. セットボルトを締め付ける。

#### 要領及び注意事項

- o 間違いなく確実に行なりこと。
- こノズル部より樹脂が出て来ないこと。
- 時計方向へ回して行うこと。
- o 回転を最低まで下げてから押釦を押して行う。
- ο ペレタイザーモーター
- 各ヒーター
- 規定のワイヤーで左右のバランスを見ながら
- 中心部にチェンプロックの下フックが くるようにする。
- ※ ノズルダイが同時に抜け落ちないよう 注意して開く。
  - o 約1cmの厚さ
  - o 手を切らないよう,ナイフで行うこと。
- ドライバーにて行うこと。傷をつけないように。
- スクリーンをプレーカーにセットし、パレル、ヘッドに入れる。
- ポルトが入り難い時は若干アダプター を持ち上げる。
- ※ ポルトの首に手をはさまないように注 意すること。
- 左右回じ長さに締付けを行う。

,	٠	
	表 I - 8	1 (続き)
•		tana di kacamatan di Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn Kabupatèn
作業手順		要領及び注意事項
17. コンセントを差し込む。		o ペレタイザーモーター用, ノズル, 7
		タプターヒーター用
	1	※ ヒーダーは、ショート及びアースして
	*	いないか点検する。
18. メインモーターを始動する。	'	・ 始動用押釦を押して行う。
-		o スクリューフィダー使用機はリングコ
	<u> </u>	ンモーターを始動する。
19. 空袋を用意する。	,	o 第1シュートに受けられるようにも。
	,	トナる。
20. 樹脂がノズルよる出るのを待っ	, ,	
21. カッター刃の調整を行う。	,	○ ペレットの連がり,刃の折損事故k注
		意しながら行う。
22 回転数を上げる。	-	・ メインモーターの回転数とチャージ量
,	-	を除々に上げる。
		○ メインモーターの電流が30A以上に
		ならないように
23. 第2シュートをセットする。	-	ο 規定の回転数とチャージ量になったら
	-	行为。
		<ul><li>共同作業時は相手の動きを良く確認し</li></ul>
,	-	「合図の確認」を徹底して行うものとす
-	-	<b>3</b> <sub>0</sub>
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
•	1	
:		
,	,	
	-	
	· · [	

郑11—82 载铅条年据图数

担当者	黄 脂 溫	\$=4 \$		,					-	- -	∞ -	~
作業及	Ž	,				,			* \			
第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第	Ž	, , ,	2	,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			; }		*		
<b>静</b>	V		-		カッター刃	救	カッター RPM	÷	,			
	Ä			·	題 是	,	油缸					
製造	B		,		油压	,	油ポンプ ファンスト					
人 7 0 4	B.	ا د	-		押出船	K9/H	-					
<b>被名1P</b> 一·号	<b>B</b>			,	20 U = R P M	-	スクリュモーターファン・ペープ	-				
		概準 温 既	スタート温度	ストップ温度	グーキチ		チャージ	3	-	_	·	
		一展	₩	#	绿	布	张	# <u></u>			**************************************	

∺ ग्रम्भात्मत्त ह्यः स्थ # 5 ±X E, ΣŔ Æ ĸ 平 # 祖の記 発出され : • 널 |<sub>\*</sub>| æ | 2 8 Ħ 1. P -- e 1 E 41 н 2 2 Ι+Ι 2 2 <u>-</u> 2 設 ĮĻ. 펅 - E **\_** d 21 ð, ۲ H 7 H H 41 <u>-</u> = Ħ H 2 2 H - <sub>6</sub> H <u>a</u>. ... <u>-</u> d. 9 Ħ 4 - F <u>-</u> 2 2 野出院名 발표 医 禁 始 花旗放弃 4 7 4

我11-83 運 転 日 誌

d. ベレットの乾燥 .

# (1) 現状と問題点

PVC樹脂ペレットは、保管条件によって、その吸湿率が相違するが、通常、0.1 多以上の吸湿率を有するものを射出成形すると成形品に銀系(シルバーストリーク) や気泡などの外観不良の発生に至る。

# (2) 対 策

吸湿率0.1 %を超したPVC樹脂ペレットは、射出成形前に乾燥を行い、吸水率を0.1 %以下にする必要がある。一般に、ホッパードライヤーや箱型乾燥機等が使用される。

その際の乾燥の条件は、70~80℃、2~3時間程度で、余り長時間あるいは高い 温度で乾燥すると、プロッキングを起しペレットが固まってしまりので注意を要する。

1	1	5	į
٠		i	ì
į	l	ı	i
	۰	•	•
			,
_			

# 2-6-2 射出成形工程

# B. 成 形

# (1). 現状と問題点

PVC継手は、昨年6月より生産を開始し、同時に販売を開始しているが、いまだ充分に満足できる製品品質のものではない。成形条件の適正を欠き、安定した成形には至っていない。もち論、このことは第14廠技術者が一番良く分っており、現在射出成形機のみならず、原料配合、ペレタイシングを通じ、種々の新たな実験を試みているが、現在のところいまだ良好な結果を得ていない。したがって交替制度もこの職場だけはいまだに1直のみの作業形態となっている。その原因は単に設備や原料の問題だけでなく、PVC継手の生産技術が充分に理解されていないからである。もち論、そのような状況での作業方法は、通常の標準作業からは、かなりかけ離れており、良好な製品が採取できないばかりでなく、安全、衛生上、極めて危険な状態でもある。特に加勢シリンダの分解作業などはその例である。一方、帳票類については、生産計画表、運転条件表、運転日誌等、ほとんどなく、もち論その活用もなされていない。生産計画は生産課、運転条件は技術課が中心として設定されており、肝心の生産職場の影が薄くなっている。工程内検査では、成形不良に対する認識が各々ペラペラであり統一されていない。また、成形品の寸法に関しては受口測定用のグージがなく全く無視されている。このような事柄は、その後の梱包の作業状態、炭化物製品の取り扱い等についても同じことがいえる。

#### (2) 対 策

PVC継手の生産技術を充分に理解することが重要である。原料の性質、成形機の能力、金型の構造などを、よく把握し、射出過程における樹脂の挙動を知り、諸元の効果を理解しなければならない。例えば、射出成形条件を変化させることによって、成形品が、どのような傾向を示すかを適切に把握(実験計画法の手法を適用するとよい)する。その結果に基づいて、適切な射出成形作業指示が提示され得る。種々の必要な標準部の規正や、それに対する実施方法の確認などのいわゆる標準化がなされればならない。

淮	*		强	坻	农	紙
(1) 生強計画	-				-	_
上産科で	生産科で生産計画が立案され、製造に選	1) 生産計画と集	は彼がどのよ	生産計画と実績がどのように推移したの	生遊計画に従って, 月々の工程計画(	4の工程計画(どの
然みたるが	<b>巻されるが, その標準事, 規準事任なく,</b>	か把握できていない。	、たいず、		機械で、どの金型で何日間成形し、	1間成形し, 製品を何
口回た鉄絡かれる。	SA 75 0	例えば、生意	医の実組が計	例えば, 生産の実績が計画より少なかっ	個作る)を作成し、連絡を徹底させる	なな彼底させる。
<b>また,公</b>	また、公司の要求あるいは機械の故障に	たならばその原	瓦因は何なの	たならばその原因は何なのか,また,必要	添付登料参照	
トット学画	よって計画が変更になることもあり、それ	な生産品を満万	<b>ミするにはど</b>	な生産肌を消足するにはどんな機械が何台	/。生难計画管理標準例影』	[例表    一8 4
	<b>は悶整企画会議の中で決定される。</b>	必要かなどとい	、った事柄が	必要かなどといった事柄が検討されていな	/ 。塩ビ生型品生産計画フ	井面フローチャート
* *	また,1台当りの機械能力が実際に把握さ	٠,٥		-		(図11-54)
れたおのず	れておらず、その上、原料効率、成形効率		•	,	( 0 成形計画表	(表11-85)
も算出方式	も鉾出方式が不明確である。	-	•		一人。成形運転日誌	(※11-86)
原料の投入	<b>1</b> 3	-	, e			-
温転者が	<b>運転者が紙袋に入ったペレットをホッパ</b>	作業が大変であ	3	作業者が既痛を起す危	オートローダーによ	- による自動原料供給を行う
一に入れている。	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	風がおる。		, , ,	्र राम्य	
条件の関	条件の設定(数1-90)					,
に対象の発	成形の条件表に当るものが被抜の街下な	。 成形条件指	成形条件指図書がないために条件	- めに条件の指図	成形条件指図むの作製	翠
ってもみか	ってあるが、作業条件の幅が広すぎるため、	が不明確たある。	٠°.		/ (例) 参照	
はこんども	ほとんど使用されない。	。 成形条件が作業者によ		<b>ムト牧団やれる</b> に		
技術科	技術科で決めた条件に対して、生産験も	いい多いる		-	表11一88	
ては現場の	ト 日 田 毎 の 大 記 ト 間 製 し 、 ト の 条 作 口 、	, ,	-	,	成形条件設定及び指示作製手順班	5元作蚁手順步/
四九名総	四七名紫光に記答される。		ì			(数11-89)

X.	田 盟 点	<b>松</b>
<b>幾秧級</b> 你		***
a) スタートはノズルに歯脂が入ったまま,	1) 成初から定常状態の温度に合わせると, ス	スタート時代,ノメル内の始間は、されい
加熱シリンダ超度を稼動状態の臨底に数	クリュウ面が焼かれて, スタート後, 1~2時	に取ってから、ノズルを取り付け、加熱シリ
<b>定し、数定温度になった後に曳射開始,</b>	IUで分解(原料が炭化して成形不能になる	ンダ温度を150℃に設定し、温度が上った
ポッパーのダンパーは最初から全隅である。	こと)することがある。	ら、ダンパーを少し聞いてスタートする。そ
"空射を数回行い"。空射出物の色がまだ。	2) また, ホッパーを全開すると, 最初はモ	の後,製品の状態を見ながら,分解させない
黄色で, 黒点(炭化物)が出ているのに	ーターに加わる荷瓜が大きいので,回転不	よう少しずつ題度を上げ、完善時の設定にす
成形に入っている。また, これを良品と	能あるいはモーター糖損になることがある。	9
<b>しん</b> 描包 した こる。	外観不良の判定払準が明確に示されてい	明始作業
-	ない。	分解は殷初黄色になり、次に黒色化する。
-		したがって黒点が出た時は分解と見なし、ス
-		クリュウヘッドを分解し、相除する。また、
, -	,	<b>県点の出たものは不良品と見なす。</b>
b) 適正な射出成形条件が得られない状態	射出成形機別に良品に対する判定基準が相	1) 製品ごとの発生しやすい不良に対し, 限
で, 製品としての成形を開始し, 良品と	遊している。	度見本を作製し,それより悪いものは不良
して取り扱う。	`	品とした描包しない。
-		2) 以上のことを全運転者に教育し, 徹底さ
		おめ。
金型からの製品取り出しを運転者が手	成形品を金型から取り出す時間が落しく相	1. 製品落下を自動で行い、製品はシュート
動で取り出している。	違するので, その間の金型の冷え方, 加熱シ	により受ける。
	リンダ中の樹脂の滞留時間が異なり,成形品	2 シュートロのないものは中間タイターを

光	即,如如	衮	紙
	の品質や外観に遊異がある。	取り付けてサイクルの一定化を図る。	化を図る。
		N = -	
			-
			寮
	5		
-			7
			-
			, ,
		8	
		X	
		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	製品落下シュート
c) シリンダ分解作業に必要な工具類が,	シリンダ分解作業に必要な工具類が、	成形 シリンダ分解作業に必要な工具類は、成形	1工具類は, 成形
成形機のそばに用意されていない状態で	扱のそばに指摘されていない。	数のそばに単値してから作業を明始する	を明始する。作
これ 作戦を行っている。	ノズルを外す時間が長いので, 分解がヘッ	ヘッ 英台車を利用すると便利。	** *** *** *** *** *** *** *** *** ***
分解時の作数については, まずノズル	ドだけでなく、シリンダ金体まで発展するこ	5 と ノズル外し用専用工具を作製し,	製し、ノメルを
を外すのに、パイプレンチで外している。	とがある。	何単に外せるようにする。	
ションダヘッドを外す時にクレーンで吊		ノズル版り付け低にネジ部に続付防止地	<b>K</b> 糖付防止剂
のよ、人間が落れ友人になる。メクリュ	,	( 卓教 グロイン対数の。	
かの牧田の都の在城市内, 京化物の記句	·	•	
the Arababahan man and a second a			

*	10 四	<b>以</b>
5 4 5		作業台市
		No. No. No.
		一口一路一一一一一
-		1211
	パレルヘッドが急に作業者の足に落下する	ションダヘッド石ヴァクァーンが酸へ形
-	<b>にとがある。</b>	おくてと。
	バレルヘッドに炭化物が付落していると再	炭化物は完全に除去する。
,	スタート後,再び分解する。	シリンダー, ヘッド
-		(詳細はスクリュウ解体作業手原味, 参照 表 11 — 9 2)
ブ時の作数については、ヒータ	ノズルを外さないために,ノズル内に歯脂	1. ストップ時位PS(ボリスチレン)ある
数ショット成形した後に,ポ	が残り、またその状態で自然冷却するために、	いは、PEの粉砕を使用して、シリング内
<sup>ゝ</sup> パーのダンパーを聞めて既料を切り。	原料が固化するまえに分解してしまう。	の歯間をパージする。
その後ノメルを外さず、その		それ以外の時は冷却用の空気吹付装置を
まま停止している。		設置する。
		数回,空射出の後に,ノズルを外し,